

目 次

1. 調 査 概 要	1
2. 調査対象地域図	2
3. 富山県の植生の概説	3
4. 凡 例 解 説	24
5. 植 生 調 査 表	53
6. 資 料 リ ス ト	194
7. 調査担当者名簿	194

1. 調査概要

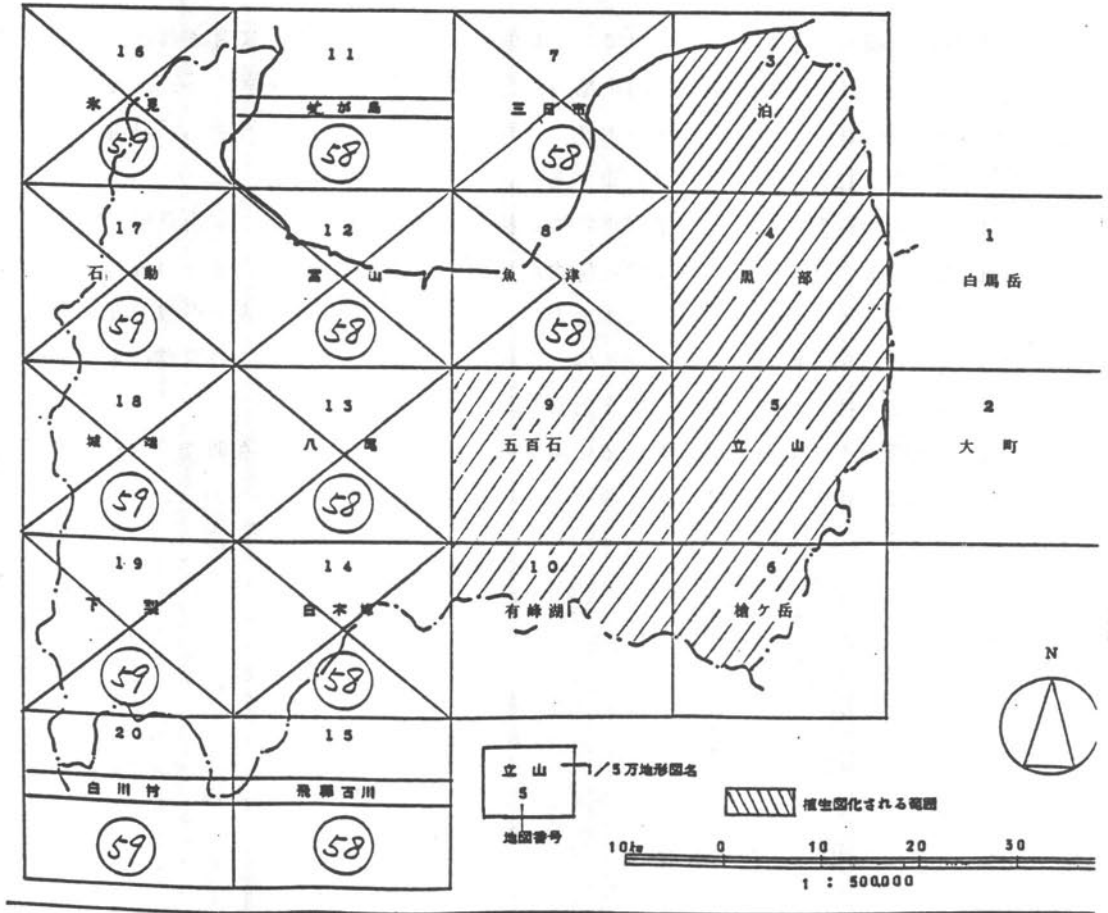
調査地域は、調査対象地域図の斜線で示す範囲で、第2回調査地域に含まれない主として県西部を中心とする地域である。国土地理院発行の5万分の1地形図の「三日市」、「魚津」、「蛇が島」、「富山」、「八尾」、「白木峰」、「飛騨古川」、「氷見」、「石動」、「城端」、「下梨」、「白川村」の12葉の富山県内の範囲である。

調査は、第1回自然環境保全基礎調査による植生図、1975年作成の富山県現存植生図、第2回自然環境保全基礎調査による特定植物群落調査及び空中写真等の既存の資料を参考とし、必要に応じ現地において植生調査を実施して、別掲の植生調査表を作成した。

また、植生図凡例一覧表に示す植生凡例区分に従い、縮尺5万分の1の現存植生図を作成し、使用した凡例すべての凡例解説を行った。(47凡例)

なお、第3回調査の対象地域以外の植生調査結果については、第2回調査(昭和54年度実施)の植生調査報告書及び植生図を参照していただきたい。

2. 調査対象地域図



(現地調査 ⊗)

(資料調査 ≡)

3. 富山県の植生の概説

- ① 気 候
- ② 地 形
- ③ 地 質
- ④ 植生概説

- (ア) 高山風衝矮性低木群落
- (イ) 高山風衝草原
- (ウ) 高山荒原草原
- (エ) 雪田の草原
- (オ) 亜高山針葉樹林
- (カ) 亜高山広葉樹林, 広葉草原
- (キ) 夏緑広葉樹林 (ブナクラス)
- (ク) 山地高茎広葉草原 (オニシモツケーオオヨモギクラス)
- (ケ) 沼沢林 (ハンノキクラス)
- (コ) 河畔林 (オノエヤナギクラス)
- (サ) 高層湿原植生
- (シ) 中間湿原植生 (ヌマガヤ群団)
- (ス) 湧水縁植物群落
- (セ) 常緑広葉樹林 (ヤブツバキクラス)
- (ソ) 海浜砂丘植物群落
- (タ) その他の植物群落

① 気 候

富山県は日本海側の典型的な北陸型気候区に属しており、日本海や地形などの影響で四季の変化は規則的リズムがある。

年平均気温は平野部で13℃～14℃で、県東部の高山では6℃以下である。8月の平均気温は平野部で26.8℃で、高山では12.4℃である。1月の平均気温は平野部で-1℃～-2℃で、高山では-15℃前後である。また、フェーン現象の時は異常に高温になり、温風のため草本樹木の葉が枯死や落葉することがまれにある。

富山県は三方を山に囲まれているので、春夏には陸海風が発生し易く、晩秋から冬期にかけては、北西または西の季節風が高山地帯で特に強い。平地から約1000mあたりまでは、冬期でも西高東低の気圧配置になると、はじめは南～南西風が強く、この時に降雪量が多くなる。2～3日後には平地から高山まで、寒気の強い西～西北西の強風の吹雪に変わる。この冬期の強風が高山植生や高山風衝植生に、台風または低気圧が日本海を北東に通過する時の南西風が、山地風衝植生に影響する。

富山県の年降水量は、平野部で2300mm、山地では3000mmを超え、県東部の山岳地帯では4000mmを超えるところがある。

富山県は世界的な豪雪地帯で、降水量の $\frac{1}{3}$ は冬期の降雪量である。次に多いのは梅雨時と台風時で、どちらも年降水量の $\frac{1}{5}$ ずつである。最深積雪量は平野部で60～90cm、山地で1～2m、東部高山地帯では3～4m以上となり、その風背地の吹だまりではそれ以上に積り、立山の立山大谷では毎年20mにもなる。

積雪は地表を乾燥や寒風から防ぐが、山岳の多雪地は雪田植生や雪崩地植生に大きい影響を与えている。

② 地 形

富山県は三方を山に囲まれ、東部に3000m級の飛騨山脈の末端が南北に走っている。その中央を黒部川が絶えず侵食して流れ、急峻な黒部の大峡谷を形成して、大起伏の高山山地を東西に二分している。二分されている山地は、長野、岐阜、富山三県の県境の三俣蓮華岳(2841m)から北へ鷲羽岳、野口五郎岳、針ノ木岳、鹿島槍ヶ岳、白馬岳、朝日岳へと連なる後立山連峰と、三俣蓮華岳より西へ黒部五郎岳、それより北へ薬師岳、立山、劔岳へと連なる立山連峰である。

これらの山岳より片貝川、常願寺川が源を発し、それらの各河川も深く急峻な峡谷をつくっている。

また飛騨山脈の山稜や山腹は母岩の露出した岩壁や急斜面であり、河床は岩崖で連なっており、劔岳、別山、真砂岳、立山、浄土山、薬師岳、黒部五郎岳などの山稜東側にカール地形があり、随所に二重山稜地形が見られる。これらの地形底は夏が終わっても堆雪している所もある。

その他に火山活動による溶岩台地の雲の平、五色ヶ原、室堂平が標高2400～2600mの高山域に、弥陀ヶ原が1600～2000mの亜高山域にそれぞれ形成され、数多くの池塘群が分布している。

県南部は、飛騨山地の標高1700～1000mの中起伏の山地で県境をなし、北に向って高度が下がり、丘陵地に続いて平野になる。この間に飛騨山地に源を持つ神通川、庄川が侵食の遷移点付近で県内に流入している。

県西部は、小起伏の山稜を境にして石川県に接し、小矢部川とその支流、氷見地方の小河川が丘陵地を流れている。

また、黒部川から小矢部川までの各河川が、小起伏状の山地や丘陵地から平地に出る所に、洪積世の旧扇状地があり、続いて各河川の大きな新扇状地が急に広く開いている。これらが複合して富山平野を形成している。この平野の中央を神通川左岸に沿って呉羽丘陵が南北に走り、富山平野を二分している。この呉羽丘陵の西部の庄川までの間と、氷見平野は海岸平野で湿性が多い。

富山湾の海岸は、氷見地方を除き砂礫海岸で、それが近年の急激な海岸侵食で海岸砂丘や砂浜は縮小または消滅している。

③ 地質

富山県東部の飛騨山脈の高地には飛騨変成岩類が顕著で、おもに片麻岩、結晶片岩で構成されている。ところどころに石灰岩をレンズ状に挟み、ところによっては十字石片岩が見られることもある。

立山、浄土山を中心として南北に細長く花崗閃緑岩が分布し、長母山、朝日岳、雪倉岳を中心に、蓮華変成岩の蛇紋岩が露出している。

新潟県境の境川流域から源流部にかけて、中生代ジュラ紀下部の来馬層が、また、神通川上流域と八尾町久婦須川の桐谷上流や有峰、薬師岳、北ノ俣岳方面にジュラ紀中部上部の手取層が広く分布している。

これらの層へ貫入した新期花崗岩類が、黒部峡谷を中心に片貝川、早月川に分布している。

新生代の古第三紀層は見られないが、県南部、西部に広く分布する小起伏山地、丘陵地は新第三紀層である。氷見地方の山地、丘陵も最も新しい第三紀層である。

第四紀層は高山地域に分布する溶岩台地の他、部分的に安山岩地もある。また、大河川の氾濫台地の旧扇状地、広い複合の新扇状地、海岸平野も含まれる。

④ 植生概説

富山県の植生自然度は本州第1位で、優れた自然が保持されている。県土の $\frac{3}{4}$ が山地であり、自然度10及び9の植生の県土面積に占める割合が30.9%であるので、山地の約 $\frac{1}{2}$ が自然度10及び9の自然植生の生育地である。そのほとんどが県東部の高山、亜高山地帯

の中部山岳国立公園に含まれている。

この県東部の3000 m級の高山は、隆起山脈の飛驒山脈の北端で、南北に連なっており、これに北西～西からの強い冬の季節風が吹きつける第一線山脈である。山稜効果、山塊効果と相まって、それよりも300～400 mも高い高山に生育する植物の種や群落が見られる。

飛驒山脈北端の山頂山稜やその西斜面に、高山風衝矮性低木群落、高山風衝草原、高山荒原草原などの各種植物群落は、多様かつ広範囲に生育している。これらの群落は、何回かの氷河時代の遺存植物の周北極植物や極地植物で構成されている。

山頂山稜の東側斜面の風背地には雪田植生や、高茎広葉植物群落がよく発達しており、また、二重山稜地形の凹地にも高茎広葉植物群落、高層湿原植生、雪田植生が随所に見られる。

溶岩台地には無数の池塘や高層湿原が分布しているが、洪積世の台地であるので、植物群落には変化性は少ない。

黒部川の大峡谷は、谷は深く急斜面の岩崖になっているので、各種の岩石崖植物群落は生育している。この群落には乾性植物群落と湿性植物群落があり、このような植生は片貝川、早月川、常願寺川の峡谷にも見られる。

山稜下部や中腹に雪崩地植物群落は生育し、峡谷の斜面下部には雪崩や洪水による崩壊で崩壊地植物群落、崩壊堆積地植物群落が発達し、これらの群落は県東部の他、県南部、南西部にも見られる。

亜高山の針葉樹林帯からブナクラスや低山の各植物群落には、多雪、長期積雪の影響に適応したと思われる種群で、日本海側特有の各植物群落が発達している。

県南部、西部にはブナクラスとそれ以下の群落が分布しており、海岸山麓にはヤブツバキクラスの群落は狭い範囲に生育している。海浜植物群落も海岸侵食のため減少しているし、扇状地末端部や海岸平野の湿性植物群落も、近年の河川、用水の改修により急激に減少している。

丘陵地の一部は畑地か水田であるが、ほとんどがコナラ、アカマツなどの二次林か、スギなどの植林地になっており、複合扇状地の富山平野は山麓から全域水田で、その中に市街地、工場、公共用地などが存在する。

(ア) 高山風衝矮性低木群落

この群落は、飛驒山脈北部の山頂、稜線の西斜面で、特に強い風衝の安定した岩石急斜面に小面積で広い範囲に生育している。

代表的群落はミネズオウ・クロマメノキ群集で、白馬連山に多く、後立山、立山連峰に広く分布している。

群集の標徴種はコメバツガザクラ、ミネズオウ、ウラシマツツジで、ガンコウラン、コケモモ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンバイ、チシマギキョウ、ミヤマウシノケグサ、ヒメスゲ、タカネスミレ、シラネニンジン、ハナゴケ類、エイランタイ類、ムシゴ

ケ類などを伴っている。

この群集にクロマメノキ亜群集，トウヤクリンドウ亜群集が認められている。

(イ) 高山風衝草原

高山の山頂山稜西斜面の強い風衝地で，礫原の緩い斜面の積雪量は少なく後氷盤になる立地に生育する。

代表的群集はヒゲハリスゲーオヤマノエンドウ群集で，雪倉岳，鉢ヶ岳，白馬岳その他に少面積で分布している。

この群集の標徴種はイワベンケイ，クモマスズメノヒエ，ヒメカラマツ，ミヤマイチゴツナギ，ミヤマツメクサ，タカネナルコ，チシマアマナ，クモマナズナで，上級単位の標徴種はオヤマノエンドウ，タカネツメクサ，ミヤマシオガマ，チシマギキョウ，オノエスゲ，ミヤマノガリヤス，ヌイオスゲ，ヒメノガリヤス，ツクモグサ，チョウノスケソウ，トウヤクリンドウ，ヒゲハリスゲ，ミヤマコウボウ，ウラジロキンバイ，チシマゼキショウ，イワスゲなどである。

この群集には，イワオウギ亜群集，シロウマオウギ変群集，リシリオウギ群落，イワベンケイ亜群集，レンゲイワヤナギ変群集，クロマメノキ変群集，ムカゴトラノオ群落，タイツリオウギ群落などが含まれる。

ハゴロモグサーオオウシノケグサ群落は，白馬岳から鉢ヶ岳の稜線風衝砂礫地にまれに生育する。ハゴロモグサ，オオウシノケグサの他に，オヤマノエンドウ群団の植物が生育している。

ミヤマヌカボシソウーイワウメ群落は，朝日岳や劔岳以南の高山風衝露岩地や，安定礫地の浅い凹地に小面積で生育している。特に白馬岳，薬師岳に多く，区分種はミヤマヌカボシソウ，イワウメである。その他，トウヤクリンドウ，チシマギキョウ，チシマアマナ，ウルップソウ，ミヤマダイコンソウ，アシボソスゲ，ミヤマキンバイ，ウラシマツツジ，イワスゲ，ミネズオウ，ガンコウランなども生育している。

(ウ) 高山荒原草原

飛騨山脈北部の山頂，山稜の風衝面斜面で，冬期積雪量が少なく後氷盤になる微砂礫地で，春秋の凍結などによって，わずかに移動する構造土の発達する不安地に，コマクサーイワツメクサクラスの植物群落が生育する。

これらの群落は単純群落か，または2～5種の植物が生育し，植被率も10～20%と少ない。

コマクサータカネスミレ群集は，特に植被率は少なく10%前後である。コマクサのみのコマクサ先駆群落は，斜面勾配20°～30°の鉢ヶ岳，三国境，清水岳などの角礫地に生育し，斜面勾配10°～20°のやや緩い斜面や，階段構造土の台面には，コマクサ，タカネスミレの他ミヤマウシノケグサ，タカネツメクサ，クモマスズメノヒエ，ミヤマキンバイなどが生育している。分布は雪倉岳，鉢ヶ岳，白馬岳，旭岳，清水岳，杓子岳，鉢ヶ岳，

天狗ノ頭、蓮華山などで、この群集にはタカネスミレ亜群集、ウルップソウ亜群集、タカネツメクサ群落、オヤマソバ群落、ウラジロキンバイ群落などがある。

高山の超塩基性岩地の、斜面勾配 10° ~ 20° で、強風衝砂礫地に、クモマミミナグサーコバノツメクサ群集が生育し、長褥山、朝日岳、雪倉岳、旭岳、清水岳に分布する。

標徴種のクモマミミナグサ(クモイミミナグサ)、コバノツメクサ、クモイナデシコ、ウメハタザオの他、ミヤマムラサキ、ミヤマウイキョウ、イブキジャコウソウ、シロウマアサツキ、タカネシオガマ、タカネスミレ、オノエスゲ、ウルップソウ、オヤマソバなどが生育し、植被率 $10\sim 20\%$ と少なく、出現植物も $5\sim 10$ 種類と少ない。この群集にミヤマムラサキ亜群集がある。

ミヤマクワガターウラジロタデ群集は、雪溪の融雪崩壊土の不安定急斜面に、ミヤマクワガタ、ウラジロタデ、イワギキョウ、ウルップソウの他、コメススキ、イワツメクサ、ミヤマコウゾリナ、ミヤマタンポポ、タカネヨモギなどが生育している。後立山連峰や立山連峰に分布するこの群集の下位には、タカネヨモギ変群集、ツクモグサ亜群集がある。

コメススキイワツメクサ群落は、高山の不安定砂礫荒原に生育し、杓子岳、真砂岳、白馬岳、清水岳などに分布している。コメススキ、イワスゲ、イワツメクサの他、ミヤマウシノケグサ、ミヤマキンバイ、チシマギキョウ、チシマアマナ、トウヤクリンドウ、ミヤマタネツケバナ、ミヤマダイコンソウなどが生育し、チシマアマナ群落、ミヤマキンバイ群落も含まれる。

その他、高山荒原のミヤマタネツケバナ群集は、白馬岳、杓子岳、北の俣岳などに小面積に、また、クモマグサ群集は赤牛岳、水晶岳、劔岳、白馬岳、旭岳の荒地または岩壁に小面積に生育している。

タテヤマキンバイ群落は、長褥山、朝日岳、立山一の越、浄土山などの雪溪下部の荒地にわずかに生育している。

(エ) 雪田の草原

冬期季節風の吹く風背の山頂、山稜の東斜面やカール地形、二重山稜の底部、各地山腹斜面の凹地に、吹きだまりや雪尻などで異常に積雪するところが随所にできる。それは南北に走る飛騨山脈に、西風の季節風が真正面から当るためで、高山では夏が終っても残雪があるところがある。

この長期積雪による雪田草原は、低海拔の山地から高山まで見られる。

タカネヤハズハハコーアオノツガザクラ群集(雪田矮性低木群落)は、高山帯斜面下部にできる雪田の周辺部や、カールの堆積堤などの、ハイマツ生育地につき融雪の早いところに生育する。6月中下旬に融雪し、融雪時には多量の水分が供給されるが、その後乾燥地に変る安定地である。

分布は、長褥山、朝日岳と劔岳以南の高山で、標徴種はアオノツガザクラ、タカネヤ

ハズハハコ、ウサギギク、タカネヒカゲノカズラである。上級単位の標徴種のチングルマ、ミヤマリンドウ、ヒメイワシヨウブ、ハクサンコザクラ、ヒメクワガタ、キンスゲ、シコクウスゴ、コイワカガミ、イトキンスゲ、コケスギラン、その他ハクサンボウフウ、ミツバオウレン、シラネニンジン、イワイチヨウなど多くの植物と生育している。この群集の下位にガンコウラン亜群集、ミヤマリンドウ亜群集がある。

ハクサンコザクラシヨウジョウスゲ群集は、イワイチヨウシヨウジョウスゲ群集より、融雪がやや遅く、より湿性な緩斜面に生育しており、夕日ヶ原、長褥山、朝日岳、小桜ヶ原、白馬岳、旭岳、清水岳、僧ヶ岳、五色ヶ原に分布する。標徴種はハクサンコザクラで、イワイチヨウ、シヨウジョウスゲ、ハクサンオオバコ、ミヤマリンドウ、チングルマ、ハクサンボウフウ、シヨウジョウバカマ、コイワカガミ、ヨツパンオガマなどの植物と生育している。

僧ヶ岳の1840 m付近に生育しているハクサンコザクラは、ハクサンボウフウ、イワイチヨウと生育している。

ハクサンオオバコ群落も似た環境のやや湿性地に分布している。僧ヶ岳のこの群落は1580 mでカワズスゲ、ミノボロスゲ、ミヤマツボスミレなどと生育している。

(オ) 亜高山針葉

この樹木の低木群落の代表はコケモモハイマツ群集で、高木群落の代表はオオシラビソ群集である。

オオシラビソ群集は、標高1600～2500 mの飛騨山脈北部の亜高山に広く分布している。冬期の季節風をさえぎる前山を持たない、第一線亜高山の僧ヶ岳、イブリ山、長褥山、朝日岳、大日岳、立山美松坂などは疎林が多く、亜高木か低い高木林になっている。また、積雪量の多い勾配 30° 以上の急斜面は、雪崩に対して抵抗が弱い浅根性のオオシラビソは生育しないでダケカンバが生育している。

そして、オオシラビソはそれら斜面の枝尾根にのみ生育するが、これはこの地帯の風衝地の特徴でもある。

オオシラビソの高木密林になるのは薬師沢、高天原、岩苔小谷、上の岳の東斜面、雲の平周辺部など、冬期季節風の第一線、第二線の山稜風陰地の南東部で、斜面勾配 38° 以下のところで、一般に風衝前面ほど低海拔に、風陰地ほど高海拔地に生育する。

この群集の標徴種はオオシラビソ、トウヒで、上級単位の標徴種はゴゼンタチバナ、コヨウラク、コミヤマカタバミ、シノブカグマ、マイヅルソウ、オオバスノキ、タケシマラン、イワナシ、ミツバオウレン、ツルツゲ、ヒメタケシマラン、コフタバラン、コガネイチゴ、コイチヨウラン、コシジオウレン、ミヤマシグレである。他に、ヤマソテツ、ミネカエデ、ダケカンバ、シヨウジョウバカマ、オオカメノキ、チシマザサ、ナナカマド、ヒロハユキザサなど多くの植物が生育している。この群集には、クロマメノキ亜群集、カニコウモリ亜群集、コメツガ亜群集がある。

コメツガ群落は標高 1200 ~ 2000m の範囲に生育し、赤男山、不帰岳、中背山、餓鬼山、劔岳早月尾根、薬師沢出合から高天原峠に至る黒部峡谷など、県東部亜高山にやや広く分布している。

この群落の区分種は、コメツガ、ムラサキヤシオツツジ、キタゴヨウ、アカミノイヌツゲで、その他オオシラビソ群集に生育する植物が多い。赤男山ではアカミノイヌツゲクロベ群集と混生している。

アカミノイヌツゲクロベ群集は、黒部峡谷の標高 300 m から赤男山 (2050 m) までと、立山山麓、薬師岳山麓、有峰、鉢伏山、人形山などに広く分布する。単木的には天狗の頭 (2720 m) などに低木として生育している。

この群集は山地のブナクラス域から、亜高山針葉樹林域の下部までは、黒部川、片貝川、早月川などの峡谷や枝尾根の角岩地や急斜面の浅い土壌の乾燥地に高木林として生育している。

また、弥陀ヶ原、太郎兵衛平、鉢伏山、東笠山などの、高海拔のゆるい斜面台地の泥炭層のある湿性地にも、亜高木林として生育している。

この群集の標徴種は、アカミノイヌツゲ、シャクナゲ (ホンシャクナゲ、ハクサンシャクナゲ、ウラゲハクサンシャクナゲ)、ミヤマシグレ、イワナンデ、上位群団のクロベ、ヒメコマツ、キタゴヨウ、ツルツゲの他、コヨウラクツツジ、ムラサキヤシオツツジ、ウスユキハナヒリノキ、ウラジロヨウラク、オオバスのノキ、イワハゼのツツジ科の植物の他、ミネカエデ、コミネカエデ、コシアブラ、ノリウツギなどの植物が生育している。この群集の下位群落にツクバネソウ亜群集とホツツジ亜群集が認められている。

ホンシャクナゲヒノキ群集の生育は悪く、生育地も少なく、上平村皆葎、葎島、大獅子山、袴腰山、大笠山などに部分的に分布しているだけである。枝尾根や角岩地の急斜面の土壌の浅い所に生育しており、高木にヒノキ、ヒメコマツ、クロベ、ブナなど、低木にホンシャクナゲ、アカミノイヌツゲ、ネジキ、アキシバなどが生育している。

ヤマソテツスギ群集は、県内の天然スギ (アシウスギ) の群落で、主に県東部のブナクラス域に分布している。分布域は黒部、片貝、早月、熊野の各川の中流域の谷部、中腹斜面、稜線山頂などや、立山美女平から弥陀ヶ原入口までの台地、八尾町の戸田峰、夫婦山、祖父岳、日尾御前などである。

また、スギの最高自生地は毛勝山南の猫又山南西斜面の 2050 m である。植林地も標高 1300 m から低山までで、自生地との境界が不明の所がある。この群集の生育地の条件は、谷間の適湿地か、山頂山稜、岩石急斜面などの乾燥地で、しかも蘇類などが生育し夏期には夜間の霧のかかる所である。

この群集の標高約 1400 m 以下の所には、高木層にブナ、ミズナラが混生し、それ以上の所ではクロベ、キタゴヨウ、オオシラビソ、コメツガなどが混入する。低木にオオカメノキ、ハウチワカエデ、チシマザサ、オオバクロモジ、ノリウツギ、ハイイヌツゲなど、

草本にヤマソテツ、シノブカグマ、イワハリガネワラビ、イワウチワ、パイカオウレンなど30~50種の植物が生育する。

ノリウツギーサワスギ群落は、山地の湧水湿地や扇状地末端の旧河道湧水湿地に生育するスギの自生地である。この群落にはアシウスギ、ノリウツギ、ヤマドリゼンマイ、ハイイヌツゲ、ショウジョウバカマ、オオミズゴケなどの植物が生育する。分布は入善町沢スギ林、上市町流水池、立山町城前ミズバショウ生育地などに分布する。

オオコメツツジーハッコウダゴヨウ群落のハッコウダゴヨウは、ハイマツとキタゴヨウの中間種とされている。

立山弥陀ヶ原入口の1500 mから、美松坂の約2000 mまでに樹高約3~4 mの低木群落として生育している。弥陀ヶ原は3°~5°の斜面勾配の緩い若い溶岩台地で、排水の悪い湿原であり、この群落は、その台地のやや低い凸部や、排水のやや良好な斜面に生育する。

この群落には、低木のアカミノイヌツゲ、クロウスゴ、ツルシキミ、ハイイヌツゲ、ツルツゲ、オオコメツツジ、チシマザサまたはチマキザサ、草本のヌマガヤ、ショウジョウスゲ、ニッコウキスゲ、イワイチョウ、ショウジョウバカマなどの植物が生育している。

コケモモハイマツ群集は、朝日岳付近の標高1800 m~3000 mの高山までの全県の高山帯に広く分布する。生育地は、一般に6月上旬までに融雪する積雪量の少ない稜線の西側斜面か、枝尾根の風衝側で、残雪期の長い雪の吹き溜りには生育しない。そのため、一面の樹海にはならず斑状に生育する。

また、風衝の強い2700 m以上では生育は困難で、わずかに帯状、縞状に低く(30~50 cm)生育しているだけである。このような低い群落にはハイマツ、コケモモ、キバナシャクナゲ、ヒメスゲ、コメススキ、ガンコウラン、コバノクロマメノキなどが樹高も1~2 mと高く広く生育する群落には、ハイマツ、コケモモ、ガンコウラン、ウラゲハクサンシャクナゲ、コガネイチゴ、ゴゼンタチバナ、ヒメタケシマラン、ミツバオウレン、ツマトリソウ、クロウスゴ、タカネナナカマドなどがそれぞれ生育している。

ミヤマビャクシン群落は、特に強い風衝地に生育し、高山風衝荒原草原の数少ない植物と生育する。分布は長楯山、朝日岳、雪倉岳、立山東一ノ越などである。

また、ハイマツ群落のソデ群落としてミヤマネズ群落が生育し、立山ミクリガ池周辺に多い。ミネヤナギ群落も似た条件で生育する。

タカネイバラシモツケソウ群落も風衝地に生育し、朝日岳、雪倉岳、立山東一ノ越、僧ヶ岳などに分布し、タカネイバラ、シモツケソウ、タカネシロソウ、ミヤマコゴメグサ、ミヤマウシノケグサなどと生育する。

(カ) 亜高山広葉樹林、広葉草原

ダケカンバ群集のダケカンバは、亜高山広葉樹で最も広く生育し、標高1100 mのブナクラス上限近くから、2500 mのハイマツ林下部までに分布している。生育地は冬季節風の第一線の急斜面か、風背の多雪地のいずれも雪崩地域である。そのため疎林が多く、

樹形も曲がっており、枝も屈曲して横に広がっている。

この群集は、長楯山、朝日岳、雪倉岳、猫又山、大日岳、薬師岳、水晶岳などの山稜下部、内蔵助平、タンボ平、立山カルデラなどの台地状斜面に広く分布している。生育している植物はダケカンバ、ウラジロナナカマド、オオヒョウウタンボク、ベニバナイチゴ、オガラバナ、カラクサイノデ、コバイケイソウ、キヌガサソウ、ミヤマメシダ、コミヤマカタバミ、ミドリユキザサなどである。

ミヤマハンノキ群落は、ダケカンバ群集内やその林縁、それより斜面勾配が強く雪崩の多い斜面に生育する。朝日岳、奥大日岳、タンボ平上部などに分布している。

オオバユキザサーヤハズハンノキ群集は、亜高山帯下部からブナクラス上部の、標高1500～2000 mあたりの山稜風背の多雪地で、高木の生育し得ない、融雪が遅いか雪崩のおきやすい所に生育する。分布は朝日岳、僧ヶ岳などである。この群集の周辺でより斜面勾配が強くなる順に、タニウツギーヒメヤシャブシ群落、カリヤスータテヤマスケ群落が生育する。

カラクサイノデーベニバナイチゴ群落は、ダケカンバ群落やヤハズハンノキ群落の生育する雪崩斜面か、それよりも積雪期間の長いそれら群落の下部斜面に部分的に生育する。分布域は白馬連山、立山連山など広い。

この群落には好湿性の植物が多く、ベニバナイチゴ、カラクサイノデ、オオバショリマ、ミヤマメシダ、ミヤマドジョウツナギ、モミジカラマツ、キヌガサソウ、コバイケイソウ、オオバユキザサ、オオバキスミレなどが生育する。

タテヤマアザミーホソバトリカブト群落は、亜高山、高山の高茎広葉植物群落の代表的群落で、高山、亜高山の雪田周辺や、7月上旬まで残雪がある緩斜面などの適湿地に生育する。

この群集は、県内高山の緩斜面に広く分布しており、多くの種類の植物が生育している。主なものは、タテヤマアザミ、ホソバトリカブト、ハクサントリカブト、クロトウヒレン、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフウロ、クルマユリ、オヤマリンドウ、ヨツバシオガマ、エゾシオガマ、コバイケイソウ、ヒトツバヨモギ、ミソガワソウ、タカネスイバ、ミヤマシシウド、ヒゲノガリヤス、イブキトラノオ、ハクサンイチゲ、ミヤマホツツジなどで、その下位置にタカネヨモギ変群集、ミヤマメシダ亜群集が認められている。

ハクサンボウフウーモミジカラマツ群集は、それよりも融雪が遅い緩斜面か凹地の湿地地に、小部分ずつ分布している。モミジカラマツ、ハクサンボウフウ、シラネニンジン、ミヤマクロスゲ、ミツバオウレンなどで区分される群集である。

ユキクラトウウチソウーオオヒゲノガリヤス群集は、ホソバトリカブト群落に似た環境に生育するが、塩基性岩類地に生育するところが異なる。分布は、夕日ヶ原(2000 m)、朝日岳、雪倉岳である。

ユキクラトウウチソウは、タカネトウチソウとカライトソウの中間種で、この群集には

この3種類の他に、クロトウヒレン、ヒゲノガリヤス、イワイチョウ、モミジカラマツ、ミヤマセンキュウ、ハクサンボウフウ、オオバショリマなどが生育する。

ミヤマドジョウツナギーオクヤマワラビ群集は、融雪の遅い雪田の周りや、雪田底、雪田下部の流水あたりなどの、安定した緩斜面の粗腐植質の湿性地に生育する。分布は、夕日ヶ原(2070m)、劔沢、浄土沢、御山谷、タンボ平、浄土山、鬼岳、黒部五郎岳などで、オクヤマワラビ、ミヤマドジョウツナギ、オオバショリマ、ミヤマゼキショウ、ミヤマキンボウゲ、クロクモソウ、キバナノコマノツメ、ミヤマツボスミレ、アラシグサ、タカネスイバ、モミジカラマツなどが生育している。

カリヤスータテヤマスケ群落は、深山、亜高山の多雪地で、勾配30°~40°の急斜面に毎年雪崩があり、低木も生育しない立地に生育する。分布はイブリ山、僧ヶ岳、奥大日岳、人形山などである。カリヤス、タテヤマスケの他、モミジカラマツ、ミヤマセンキュウ、オオバショリマ、ヒトツバヨモギ、コバイケイソウ、ヒゲノガリヤス、エゾシオガマなどが生育し、下層にマイヅルソウ、オオバキスミレなどが生育している。また、オオサクラソウの混生する群落もある。

(キ) 夏緑広葉樹林(ブナクラス)

ブナクラスは標高400~1800mに分布しており、チシマザサーブナ群団の植生が最も広く生育している。ブナの最低生育地は小矢部市小白谷(100m)、二上山(177m)、宇奈月町内山(200m)、倶利伽羅峠(277m)などである。

この群団の代表的群落はヒメアオキーブナ群集である。この群集は低海拔の400mから1000m以上の山腹斜面の、土壌が厚く適湿の安定した地形に多く生育する。早月川、上市川の上流、立山美女平、ブナ坂、ブナ平、真川上流、熊野川、長棟川源流、有峰や、八尾町、利賀村、上平村などの岐阜県境の山地などに広く分布する。

この生育地は古くから人の利用する地帯で、その多くはミズナラの二次林に変わっており、近年その二次林や奥地のブナ林が大規模にスギ植林地に変わっている。

この群集にはブナ、ミズナラ、シナノキ、ホオノキ、イタヤカエデ、トチなどの高木、ウワミズザクラ、ウリハダカエデ、コシアブラ、コハウチワカエデなどの亜高木、チシマザサ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、コマユミ、ハイイヌガヤ、オオバクロモジ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、ノリウツギ、ヒメモチなどの低木、シラネワラビ、ヤマソテツ、シノブカグマ、シンガシラ、オオバユキザサ、オクモミジハグマ、イワカガミ、ツルアリドウシなどの草本類など多くの種類が高頻度に生育する。この群集の下位群落にユキツバキ亜群集があり、ユキツバキ、ツノハシバミなどが生育する。ユキツバキは標高300m~900mに広く分布し、僧ヶ岳では1400mまで生育する。

マルバマンサクーブナ群集は、ブナクラスの中部より上限までの高海拔地に多く、比較的斜面勾配が強く、土壌が浅い風衝の尾根部などに生育する。分布は境川、黒部川本流、支流、片貝川、早月川、上市川などの源流地域である。

この群集にはブナ、マルバマンサク、アクシバ、アカミノイヌツゲ、ムラサキヤシオツツジ、トクワカソウ、ナナカマド、コミネカエデ、ツクバネソウ、マイヅルソウ、タムシバ、シノブカグマなど多くの種類が生育する。

この群集の生育地の尾根には、アカミノイヌツゲクロベ群集や、ヤマソテツースギ群集が混生し、また上限地域ではオオシラビソ、コメツガ、キタゴヨウ、ダケカンバなどが混生する。また、ツバメオモト亜群集にはタケシマラン、ミネカエデ、ツバメオモトなどが生育する。

ヤグルマソウウダイカンバ群落は、ブナクラス域の標高900~1200mあたりの自然崩壊斜面やその堆積急斜面に、先駆植生として一斉林が生育している。土地的条件によるブナ群落、トチ群落の代償植生になっている。

分布は黒部森石谷付近、黒蘆川、樺平付近、真川上流、和田川足谷などである。

この群落には、ウダイカンバ、ブナ、イタヤカエデ、トチ、ヤマハンノキ、ハウチワカエデ、ツリバナ、アラゲアオダモ、ヤグルマソウ、カメバヒキオコシ、オオカニコウモリ、ミヤマベニシダなど多くの種類が生育する。

オクノカンスゲーチシマザサ群集は、亜高山からブナクラス上部までの、山稜風背地、浅い谷頭、緩い斜面や凹地などの、多雪地のためチシマザサ以外の樹木の生育が困難で、粗腐植質の適湿地に部分的に生育する。分布はイブリ山、長母山、朝日岳、清水岳下部、僧ヶ岳、早月尾根、大日岳下部、薬師沢、白木峰、金剛堂山などで、チシマザサ、ダケカンバ、オクノカンスゲ、オオバユキザサ、マイヅルソウ、ツマトリソウなど多くの種類が生育する。

オオバスノキーミネカエデ群落は、オオシラビソ群集、ダケカンバ群落の風衝面の周辺にソデ群落として生育している。この群落はミネカエデの優占する小群落で、長母山、朝日岳、奥大日岳、立山天狗平、薬師岳などに分布する。

マルバウスゴーチシマザサ群落は、弥陀ヶ原のショウジョウスゲ群落内のごく低い凸部に生育している。樹高30~50cmのチマキザサ(またはチシマザサ)、クロウスゴで構成され、五色ヶ原、太郎兵衛平、太郎山、上ノ岳の緩斜面にも分布している。

ツガ群団(常緑針葉高木林)のサイゴクミツバツツジツガ群集は、黒部峡谷の本流と、支流の黒蘆川、小黒部谷、祖母谷などの300~1000mの角岩の突出した枝尾根や急斜面、岩崖の段面に限られて生育している。

高木では、ツガに混ってキタゴヨウ、クロベ、低木ではサイゴクミツバツツジ、ホツツジ、タムシバ、アカミノイヌツゲなど、草本層ではイワナシ、オサシダ、ミヤマイタチシダ、イワハゼ、シノブカグマ、ツルアリドウシなどが生育している。

また、ホンシャクナゲ亜群集には、ホンシャクナゲ、タカノツメ、トクワカソウ、オサシダなどが生育する。

キャラボク群落は、僧ヶ岳、白木峰、金剛堂山、人形山などに、ごくまれに帯状または

斑塊状に、2～8 mの低木または亜高木で生育している。僧ヶ岳では強い風衝地のため、風圧や雪圧により風背側に倒伏しているキャラボク、チシマザサ、アカミノイヌツゲ、マルバマンサク、ホツツジ、ミネカエデなどの低木が見られる。

サワグルミ群団のジュウモンジシダーサワグルミ群集は、ブナクラス域の沢筋の崩壊堆積地、崖錐台地、不安定な小扇状地などの、やや湿性地に溪谷林として生育する。黒部峡谷、片貝川、早月川、真川などの本流支流に分布し、県東部に多い。

この群集には、サワグルミ、カツラ、オヒョウニレ、ウリノキ、ミヤマニワトコ、エゾアジサイ、ミヤマイラクサ、ミヤマベニシダ、サカゲイノデ、リョウメンシダ、ウワバミソウ、ムカゴイラクサ、オシダ、オオサワハコベなど、高茎広葉草本が多く生育している。この群落の緩斜面下部や周辺より湿性地に低木のミヤマイボターヤブデマリ群落が見られる。また、類似の湿性地にサワフタギ群落、クロウメモドキ群落が生育することもある。

トチ群落は、サワグルミ群落の周辺、ミズナラ群落、ブナ群落の斜面下部の安定した緩斜面に生育する。黒部川、片貝川、早月川、真川、和田川、庄川の本流支流の谷部や、利賀村、平村、上平村の山中斜面に生育しているが、古くから用材として利用されているので、大群落は少なくなっている。

この群落の優占種はトチで、その他ミズナラ、ブナ、ケハリギリ、ミズキ、サワグルミ、キハダの高木、チシマザサ、オオバクロモジ、ハイイヌガヤ、ウワミズザクラ、ウリノキ、ツリバナ、ハナイカダなどの低木、ジュウモンジシダ、サカゲイノデ、ミゾシダ、ミヤマカンスゲなどの草本が生育している。

ハルニレ群団のハルニレ群集は、有峰盆地に注ぐ小さな氾濫原に生育していたが、湖底に沈み、今は単木的に生育しているだけである。楡原の神社の境内林も近年消滅してしまった。この群集にはハルニレ、ミヤマイラクサ、マイヅルソウ、オオタチツボスミレ、オオウバユリ、オシダ、ミヤマカンスゲ、イブキヌカボなどが生育する。

イヌシダークオナラ群団のオオバクロモジーミズナラ群集は、ブナ群落の下部に全果的に広く分布し、一部ブナ林の二次林として持続遷移の段階の高木林も見られる。近年スギの植林地に変わった所も多い。

この群落にはミズナラが優占し、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、シナノキ、ホオノキ、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、コシアブラ、アズキナシ、コハウチワカエデなどや、低木、草本が多く生育し、出現数も40～60種と多い。

ホツツジーミズナラ群集は、峡谷の岩石突出部の土壌の浅い乾燥地に部分的に生育する。黒部峡谷、片貝谷、早月谷など県東部に多く、地形的極相林として分布している。この群落にはミズナラ、ホツツジ、サイゴクミツバツツジ、カクミスノキなどが生育している。

ホツツジークマンシデ群集は、標高200～800 mの古生代地質の峡谷の、ホツツジーミズナラ群集の下部角岩地急斜面に、小面積で生育している。この群集にはクマンシデ、ホツツジ、ホソバカンスゲ、ヒメジャガ、トクワカソウなどが生育している。

ヤマツツジーアカマツ群集は、扇状地、丘陵地、低山帯の稜線、枝尾根の凝灰岩質、安山岩、新第三紀の砂岩質の乾燥し易い立地に生育する。生育地は海岸線より標高 500～600 m までで、それより上部はヒメコマツ林になるが、鋸岳では 800 m、有峰では 1200 m まで生育している。

基岩の露出した瘦尾根に生育する天然林、その他大部分の二次林、丘陵地の一部に植林地などがあるが判別は困難な所が多い。また、海岸砂丘地、扇状地ではほとんど消滅したが、早月川扇状地の一部と、島尾海岸にわずかに残っている。

この群落には、アカマツ、ヤマツツジ、ソヨゴ、サイゴクミツバツツジ、アクシバの他、コナラ、ネジキ、ホツツジ、ヒサカキ、クルマバハグマ、シュンラン、シシガシラ、コシノホンモンジスゲ、オオバノトンボソウ、シュロソウなどが生育している。

オクチョウジザクラコナラ群集は、丘陵地から標高 300～400 m の低山の、主にヒメアオキウラジロガシ群集の生育域に、二次林として生育している。この群落は定期的な伐採や人為的影響を受けて持続してきた代償植生として広く残っている。

この群落にはコナラ、コハウチワカエデ、ホツツジ、サイゴクミツバツツジ、ヤマツツジ、ダンコウバイ、ショウジョウバカマの他、ユキバタツバキ、ヒサカキ、キンキマメザクラ、ヤマモミジ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ、ヒメアオキ、ウスユキハナヒリノキ、ミヤマナルコユリ、トキワイカリソウなどの多雪地の日本海要素の植物が多く生育する。

この群落の適湿の北斜面などにチマキササヤカタクリの多い群落が形成される。古くからスギの植林地の大部分はコナラ群落の生育地で、クレーコナラ群落の二次林になっている場合もある。

ウラジロヨウラクミヤマナラ群団の、ウラジロヨウラクウラジロハナヒリノキ群集は、標高 1000～1900 m の山稜などの冬期季節風の風衝地で、オオシラビソ群集、クロベ群落のソデ群落として、まれに生育する。駒ヶ岳、大山町鉢伏山、東笠山などに分布する。この群集のハナヒリノキはウスユキハナヒリノキの場合が多い。

ミヤマナラ群集は、標高 1700～1900 m の中級山地山稜の、風衝低木群落として生育し、弥陀ヶ原、大山町鉢伏山、東笠山などに分布している。この群集にはハクサンシャクナゲが生育している。

ケヤキ群団のチャボガヤケヤキ群集は、ヒメアオキウラジロガシ群集の生育する岩崖や岩石急斜面に接続してか、これより上流の溪谷の岩崖や急斜面に部分的に生育している。

この群集は、県内の河川の下流中流の谷間に広く分布し、ケヤキ、チャボガヤ、シナノキ、サワシバ、ハクウンボク、メグスリノキ、ヒメリシズカ、ハルユキノシタの他、日本海要素植物が多く生育している。

ケンボナシケヤキ群集は、チャボガヤケヤキ群集の生育地の下部から海岸地域までの台地の斜面下部、浅い谷間の斜面下部や、堆積地などの適湿地に部分的に生育している。

全県の山間部落の周辺に多く、ケヤキ、ケンボナシ、オニグルミ、ヤマブキ、コシノホンモンジスゲ、オクマワラビ、ヤブソテツなど多くの植物が生育している。

シラカバ群落は、ブナ林、ミズナラ林の伐採跡地に二次林として生育しており、有峰、大山町原の白樺平、長棟川源流の盆地、立山カルデラ入口付近の崩壊荒地に分布している。この群落にブナクラスの樹木、草本が生育している。

ミヤマシシウドーオオイタドリ群集は、亜高山帯や山地帯の深山に多く、県東部の峡谷、立山カルデラ、有峰などに特に多く分布している。この群集にはミヤマシシウド、オオイタドリ、オオハナウド、オオヨモギなどの植物が生育している。また、オオイタドリは常願寺川支流の小口川以東の、亜高山帯から海岸まで広く分布している。

ハクサンカメバヒキオコシーアカソ群集は、低山から深山までの山麓崩壊地などの、やや乾燥貧栄養地に生育する。県内全域の谷間に小面積で分布しており、アカソ、カメバヒキオコシ、ナンブアザミ、ケイタドリ、オオヨモギ、テンニンソウなどの多くの植物が生育している。また、深山の堆雪地にクロバナヒキオコシーヤマヨモギ群集も生育することがある。

フジアザミーヤマホテルブクロ群集は、崩壊急斜面で砂礫の少しづつ移動する崖面の、陽光地にまれに生育する。植被率も種類数も少なく、県西部に点在するだけである。

(ク) 沼沢林(ハンノキクラス)

ツリフネソウーハンノキ群集や、カタコブシーハンノキ群落は、扇状地末端の湧水地や低山、丘陵地谷間の湿性に部分的に生育しているが、これらの群落は近年急激に減少してきている。

ヤチダモーミヤマカワラハンノキ群落は、ハンノキの代りにミヤマカワラハンノキの生育する群落で、上市町流水池の湿地(標高 670 m)に 1ヶ所見られるだけである。

ヤマドリゼンマイーハイイヌツゲ群落は、山間谷間の湧水湿地に小面積に生育している。ハイイヌツゲ、ノリウツギ、ヤマドリゼンマイ、オオミズゴケなど生育している植物は少なく、立山町常楽園、上市町東種、利賀村、上平村などに分布する。

ノリウツギーサワスギ群落は、山地の湧水湿地や、扇状地末端の旧河道湧水湿地に生育する。入善町沢スギ林、上市町流水池、立山町白岩川源流ミズバンショウ生育地などに分布し、アシオスギ、ノリウツギ、ヤマドリゼンマイ、ハイイヌツゲ、ショウジョウバカマ、オオミズゴケなどの、わずかの植物が生育している。

(コ) 河畔林(オノエヤナギクラス)

扇状地末端部の湿地や、デルタの河川敷の周辺にカワヤナギ林、扇状地末端部や用水周辺にアカメヤナギ林、扇状地末端部から扇央あたりまでの用水周辺などにシロヤナギ林、扇央から扇頂谷間までにコゴメヤナギ林、山麓谷間の入口付近から、標高 1000 m までの溪谷湿地にオノエヤナギ林がそれぞれ生育する。

カワヤナギ林は神通川河口付近に、コゴメヤナギ林は入善町墓ノ木の黒部川河川敷に、

オノエヤナギ林は立山カルデラ泥鰯池周辺に多く分布している。

また、イヌコリヤナギ群落は扇状地河川敷や山麓崩壊乾燥地に生育しているし、ネコヤナギ群落は扇状地河川の流路周辺、急流の用水周辺、谷川の流路周辺に広く生育している。

ドクウツギーアキグミ群集は、扇状地河川敷や海岸砂丘に生育し、砂礫流量の多い急流の暴れ川河川敷ほど広く生育する。このような河川敷の先駆植物はカワラハハコ群落で、冠水をするとアキグミ群落になる。その上へ砂などが堆積すると富栄養になるので、ヤナギ群落になるが、それ以前にコマツナギ群落になることもある。

県内の河川は河床の氾濫原が発達していない欠床谷が多いので、ドロノキ群団のオオバヤナギードロノキ群集の生育地はまれである。欠床谷が形成されるのは、県内の各河川の峡谷は水量が豊富で、高海拔から急激に流れ落ちる急流の侵食峡谷（V字谷）のためである。

この群集は常願寺川上流の真川の流域の堰堤による河川敷、立山カルデラの水谷、多枝原台地などに分布し、適湿地、湿性地にオオバヤナギ群落、やや乾燥地にドロノキ群落が生育している。

コマガダケスグリーオオバヤナギ群落は、黒部川源流、雲の平南斜面の祖父沢、祖父平、黒部五郎沢の河川沿いなどの河床氾濫台地（2000～2200 m）に、小面積ではあるが点在している。高木にオオシラビソ、ウラジロモミが混り、亜高山の低木草本が生育している。

タニウツギ群団は、山腹急斜面の崩壊斜面や堆積台地、また林道建設の削土の法面やその堆積土の乾燥地、適湿地に低木性の植物群落が生育している。

タニウツギーヤマハンノキ群集は、山地崩壊斜面や人工の乾性な斜面に、標高100～800 mの範囲で小面積ながら全県的に分布している。この群集はタニウツギ、ヒメヤシャブシ、キツネヤナギの優占度が高い。

ウワバミソウーミヤマカワラハンノキ群集は、湿性な山地崩壊斜面やその堆積地に、低木群落として生育し、小面積ではあるが、全県に分布している。この群集の低木草本の植被率は多く、高茎広葉植物が多く生育している。

(ウ) 高層湿原植生

富山県には、高標高地の緩斜面にいくつかの広い溶岩台地がある。そこには数多くの池塘が広範囲に散在する湿原が見られる。また、湿原は二重山稜底にも見られる、これらの池塘内や周りに、多様な高層湿原植生が生育しているが、溶岩台地の池塘は基岩が溶岩のため、一般に夏期に減水するか、干し上ることが多い。

ミヤマイヌノハナヒゲーワタミズゴケ群集は、立山弥陀ヶ原や五色ヶ原などの火山台地、黒部川原流の高天原、大山町鉢伏山、東笠山、八尾町白木峰などに分布する。ミヤマイヌノハナヒゲ、モウセンゴケ、ワタミズゴケなどで池塘堤を作り、池塘堤は幅10cmから3 m、高さは10cmから50cmに達する。この中にヌマガヤ群落の植物やウツクシミズゴケなども生育する。

ヤチカワズスゲーキダチミズゴケ群集は、立山鏡石平、天狗平、五色ヶ原などに分布している。ヤチカワズスゲ、モウセンゴケ、キダチミズゴケ、ヌマガヤ群落の植物が生育しているが、池塘堤は前群集ほど大きくない。

ミカズキグサーミヤマイヌノハナヒゲ群集は、弥陀ヶ原、東笠山の池塘周辺や、それに続く湿地に分布し、ミヤマイヌノハナヒゲ、ミカズキグサ、モウセンゴケ、ヤマトキノウ、アサヒランなどが生育する。

ダケスゲ群集は池塘堤や、浅い池塘内に生育し、朝日岳、立山弥陀ヶ原、高天原、東笠山などに分布する。この群集にはダケスゲ、キンスゲ、ワタスゲ、エゾホソイ、ミズゴケなどが生育している。

また、ハクサンスゲ群落は、清水岳、立山浄土沢に分布する。

オオイヌノハナヒゲーヤチスゲ群集は、黒部川祖母谷から唐松岳への登山道の餓鬼山中腹の、餓鬼の田圃の湿地に生育する。この群集には、ヤチスゲ、オオイヌノハナヒゲ、モウセンゴケ、エゾシロネ、ホソバミズゴケなどが生育している。

ミヤマホタルイ群集は池塘内に株状に生育しており、大日平、弥陀ヶ原、太郎兵衛平、高天原などに分布している。また、エゾホソイ群落は、鏡石平、天狗平、室堂平などの夏期に乾燥する池塘に、ヒメホタルイ群落は弥陀ヶ原などに分布する。

(シ) 中間湿原植生(ヌマガヤ群団)

溶岩台地や、標高 2000 m 前後の深山の山頂、山稜などの緩斜面の、粗腐植質の湿地や湿性地に中間湿原植生が生育する。

イワイチョウーヌマガヤ群集は、立山弥陀ヶ原、天狗平、五色ヶ原、雲の平の溶岩台地、朝日岳北部の黒岩平、夕日ヶ原、高天原、上ノ岳などの二重山稜、鉢伏山、東笠山など、広い範囲に分布している。この群集にはヌマガヤ、イワイチョウ、ナガボノワレモコウ、イワショウブ、タテヤマリンドウ、ワタスゲの他、チングルマ、キンコウカなどが生育している。

イワイチョウーショウジョウスゲ群集は、亜高山帯から高山帯の緩斜面台地や、山稜東側風背堆雪地の緩斜面に生育する。共に融雪がやや遅く、低木の生育困難な所である。長母山、夕日ヶ原、朝日岳、鉢岳南麓から三国峠、清水平、太郎兵衛平、薬師岳、太郎山、北ノ俣岳、東笠山などの山稜山腹斜面や、大日平、弥陀ヶ原、天狗平、室堂平、五色ヶ原、雲の平などの溶岩台地に広く分布している。

この群落には、ショウジョウスゲ、イワイチョウの他、チングルマ、イワショウブ、ショウジョウバカマ、ミツバオウレン、コイワカガミ、コバイケイソウ、ミヤマリンドウ、シラネニンジンなど多くの植物が生育している。

この群集の生育地で、わずかに地下水が湧水して流れる緩斜面の湿地に、ヒメジャクナゲ群落が生育し、ミズゴケ、モウセンゴケも生育する。この群落は太郎兵衛平、東笠山、小白木峰に分布している。

これに似た湧水のやや多く流れる湿地にキンコウカ群落があり、夕日ヶ原、鏡石平、太郎兵衛平などに分布する。

ミズギクヌマガヤ群集は、常願寺川の支流小口川の源流、祐延湖の東側と西側の西俣谷入口の、湧水緩斜面に生育するミズギクの優占する群落である。ミズギクの他、ヌマガヤ、モウセンゴケ、キンコウカ、イワショウブなどの植物が生育している。

タカネクロスゲ群落は、朝日岳小桜ヶ原（標高2000m）などの二重山稜底の、粗腐植質が厚い、わずかに湧水の流れる過湿地に生育する。この群落にはタカネクロスゲ、イワイチョウ、キンスゲ、ヤチカワズスゲの他、ハクサンオオバコ、ハクサンコザクラ、シラネニンジンなどが生育する。

キンスゲ群落は雪田底、積雪融水路沿、二重山稜底などの過湿地に生育し、僧ヶ岳、長楯山、小桜ヶ原、浄土沢、黒部川源流などに分布する。

カワズスゲ群落、ミノボロスゲ群落も二重山稜底などの融雪多湿地に生育する。

ミヤマイ群集は、高山の雪田湿地や融雪水の流水周りに生育し、劔沢、浄土沢、五色ヶ原、太郎山、黒部五郎岳、水晶小屋南、獅子岳、清水岳などに分布している。

この群集にはミヤマイが優占し、ハクサンボウフウ、ヒロハノコメススキ、キンスゲ、イワイチョウ、ミヤマキンボウゲ、シラネニンジン、アラシグサ、クロクモソウ、モミジカラマツなどが生育し、このうちの2～5種が多く出現する。

この群落に続いて、やや乾燥した似た環境の所にヒロハノコメススキ群落が分布し、朝日岳、浄土沢、五色ヶ原などに生育している。

ミズゴケアセスゲ群落は、山中の池やその周りの浮岸に生育している。このような池は、池中や周囲から地下水が湧水する池で、上市町つぶら池、平村猫池に浮島として見られ、上平村小瀬の池の平の池では浮岸のみが見られる。この群落にはアセスゲ、ミズオトギリ、ミツガンワの他、ヒメシダ、ドクゼリなどの地下茎がからみ合った中に、オオミズゴケまたはホソバミズゴケが生育して浮いている。

ミツガンワ群落は、朝日岳北部の黒岩平の池塘（1640m）、魚津市小菅沼（360m）、上平村小瀬（800m）、劔岳池ノ平（2000m）などの湧水する池の中に、純群落として生育することが多い。また黒部市石田の海岸に近い湧水池にも生育する。

ドクゼリ群落は、上市町流水池、つぶら池の湧水の細流周りに生育し、ドクゼリの単純群落か、優占する群落である。この群落には、ドクゼリ、エゾシロネ、サワオグルマ、イワアカバナ、ヌマハリイなどが生育している。

オオイヌノハナヒゲオオミズゴケ群落は、山地の陽光凹地へ地下水が流入するか、わずかに湧水する湿地に、始めはミズゴケの単純群落か、モウセンゴケの混生する群落として生育し、後にオオイヌノハナヒゲの優占する群落になる。分布は利賀村谷内谷、上市町高峰山、八尾町深谷などで、オオイヌノハナヒゲの他、ミカツキグサ、ミズオトギリ、エゾシロネ、カサスゲ、トキソウ、ヒメシダ、ミズゴケなどが生育する。

オオミズゴケヤマドリゼンマイ群落は、オオイヌノハナヒゲミズゴケ群落に似た環境に生育する。利賀村谷内谷、上平村小瀬などに分布し、ヤマドリゼンマイ、オオミズゴケ、エゾシロネ、ミズオトギリ、トキノウ、カサスゲの他、ハイイヌツゲ、ノリウツギの幼樹も生育する。

低層湿原植生(ヨシクラス)の、ウキヤガラマコモ群落は氷見市十二町瀧に、サンカクイーコガマ群落、ミクリ群落、セリークサヨシ群落、カサスゲ群落、チゴザサーアゼスゲ群落、ヒライーカモノハシ群落は平地、山間の池沼、用水の周辺や谷間の湧水湿地に生育している。

オギ群落は高河川敷や湿性の堤防などに生育し、ツルヨシ群落は、急流用水、扇状地河川敷の流路周りに生育する。

(ス) 湧水縁植物群落

高山から低山までの湧水の細流から、谷川の流水縁に好湿性植物が生育する。

リュウキンカーミズバショウ群集は、山地帯から亜高山帯の湧水縁に生育している。亜高山帯での生育地は、朝日岳(標高2050m付近)、薬師岳(標高2330m付近)、岩苔小谷(標高2500m付近)で、その他水無平などでも小範囲に生育している。この群落にはミズバショウ、リュウキンカの他、オクヤマガラシ、ミヤマタネツケバナなどが生育し、祐延湖畔ではキセルアザミが混生している。また、深山などの湧水の停滞水域にミズバショウ単純群落が分布していることもある。

アイバソウミズバショウ群落は、標高1200~1400mの山地の、やや広い湧水地の湿地に、ミズバショウ、アイバソウ、エゾシロネなどが生育しており、魚津市池尻の池、祐延湖西谷、水無平などに分布している。

ヨシミズバショウ群落は、標高800~1000mあたりの群落で、ヨシが生育し、エゾシロネ、タチアザミ、オオニガナなどヨシクラスの植物が混生している。白岩川源流域、縄ヶ池など広い範囲に生育し、ヤナギ類が侵入している。

チョウジギクータヌキラン群集は、山地峡谷の崖面や急斜面などの流水周辺に小群落で全体的に分布し、タヌキラン、チョウジギク、イワショウブ、ショウジョウスゲ、ダイヤモンドソウ、オオバギボウシなどが生育している。低山山地の似た環境にダイヤモンドソウ群落があり、薬師沢などの標高1800~2250mの亜高山帯に、ミクリゼキショウ、イワショウブ、モウセンゴケなどの生育するミクリゼキショウ群落がある。また、薬師沢や裕延湖付近、水無平などにタヌキランの入らない、チョウジギクサトスゲ群落があり、標高100~400mあたりの谷間の岩石崖細流域に、タヌキランの単純群落か、サワオトギリ、ダイヤモンドソウなども混生するタヌキラン群集が広く分布している。

フキユキノシタ群集は、鷲羽岳周辺の細流、黒部川の源流域、針ノ木谷上流、それより上流の黒部川右岸、薬師沢、北又谷上流の岩石崖の、湧水のしたたり落ちるところに純群落が分布している。まれに、ミヤマダイヤモンドソウ、またはダイヤモンドソウ、イワアカバ

ナなどが混生している。

オオバタネツケバナ群集は、山地の湧水周りに純群落として小面積に生育している。北又谷、小川上流、片貝川南又谷、八尾町各河川の上流に分布し、入善町沢スギ林内の湧水流などでは、この群落にホソバノヨツバムグラが生育している。

オオバミゾホオズキーオタカラコウ群落は、山地深山の湧水細流周りに小群落で生育している。似た環境にクロクモソウの単純群落も広く分布する。

ミツデウラボシーイワタバコ群落のイワタバコの生育地は少なく、ダイヤモンドソウが混生し、八尾町谷折、平村祖山、相倉などに分布する。

(七) 常緑広葉樹林(ヤブツバキクラス)

このクラスの潜在分布域は、富山湾の海岸部から、山麓谷間、丘陵地の標高300～350 mまでの全域である。現在、この地域は水田、畑地、植林や人為施設にほとんど利用され、ごく一部分境内林、保存林、保安林として自然植生が残存しているだけである。

ヤブコウジースダジイ群集は、県西部の氷見地方と、県東部の朝日町宮崎地方のみに分布している。それも海浜に近い山麓急斜面や、枝尾根の末端部に部分的に生育し、社寺の境内林や保安林になっている。

アカガシ群落は、標高200 mの大沢野町寺家公園の内陸部まで生育しているし、モチノキ群落は氷見海岸地域と、呉羽駅近くの社の境内林として生育している。

イノデータブ群集は、スタジイ群落に続いた斜面下部や、崖下の土壤が深く肥沃で、適湿に保たれているところに生育し、氷見地方と朝日町宮崎の丘陵山麓にまれに分布している。また、氷見地方にはヤブニッケイ群落もまれに生育する。

マサキートベラ群集は、氷見地方の阿尾城址などの海水面に接した岩壁に部分的に生育している。

シロダモーケヤキ群落は、洪積台地の河岸段丘の崖側急斜面などの、肥沃な適湿地に生育し、朝日町下山新などの黒部川河岸段丘や、魚津市大海寺野新、立山町野沢などに部分的に分布している。シロダモ、ケヤキの他、アカメガシワ、ケンボナシ、ヤマイトチシダ、キッコウハグマ、ナキリスゲ、オクマワラビ、ベニシダ、ジャノヒゲなどが生育している。

ヒメアオキーウラジロガシ群集の潜在植生域はこのクラスで最も広く、上限はブナクラスに連続している。今は、標高400 mまでの丘陵地斜面に社寺林としてわずかに点在し、扇頂の谷間入口から上流の角岩、集塊岩、砂泥岩の岩石崖に崩壊防止の保安林として残存しているだけである。分布は、黒部川の愛本宇奈月、神通峡谷、宮川峡、小河川の境川、布施川、熊野川、久婦須川、室牧川、山田川などの岩石崖で、この群集にはユキバツバキが生育している。

(八) 海浜砂丘植物群落

富山湾沿岸は、かって100～200 m幅の緩い傾斜の砂浜が広がり、その後には比高2～5 m、時には入善町園家山のように標高17.4 mもの砂丘へと続いていた。現在は急激な海岸

侵食により、これらの砂浜は減少または消滅したりして、後背地のマツ林も無くなった所も多い。残存している海浜植物の生育地は、入善町園家山、芦崎、黒部市荒俣、石田、大島、富山市常願寺川河口から岩瀬、神通川河口から打出までと、高岡市雨晴、氷見市島尾海岸などである。そこにはオカヒジキクラス、ハマボウフウクラス、ハマゴウクラスの諸群落が生育する。

(タ) その他の植物群落

ススキクラスにはススキ群落、シバ群落があるが、ススキ群落は萱葺き屋根時代の刈取草原の二次草原であったが、今は必要性がなく、崩壊地、荒地、造成地、用水周りなどに部分的に生育している。

ヨモギクラスにはアキノノゲシーカナムグラ群落、ユウガギクーヨモギ群落、カワラヨモギーカワラハハコ群落があるが、路傍、造成地、荒地、堤防、河川敷、放棄田など随所に、二次草原として生育している。県内の河川は急流の暴れ川であるので、どの河川も広い河川敷を持っている。ここには広いアキグミ群落と、その前遷移のカワラヨモギーカワラハハコ群落が生育している。この間にはコマツナギ群落、チガヤ群落、メドハギ群落なども生育している。

オオバコクラスには、ニワホコリーカゼクサ群落、オオバコ群落その他の群落がある。

イネクラス、シロザクラスの群落も家庭の周囲に広く見られる。

ヒルムシロ、コウキクサクラスの群落は、近年土地改良、用水の改修などで減少したが、小面積の群落は、主にデルタ地帯や山間の池沼にわずかに見られる。

4. 凡 例 解 説

(第3回調査の対象地域について)

第2回の植生調査報告以外の富山県の範囲で、主に富山県西部である。すなわち、1/5万地形図の三日市、魚津、蛇ヶ島、富山、八尾、白木峰、飛騨古川、氷見、石動、城端、下梨、白川村である。県境に接する部分では、富山県内の部分を対象としている。

なお、解説は修正表示番号順としている。

亜寒帯・亜高山帯自然植生

1. ミドリユキザサーダケカンバ群団

この群団は、石川県、岐阜県、富山県の3県境に位置する笈ヶ岳(標高1841m)より北へ続く大笠山、奈良岳の稜線の急斜面に生育しており、見越山、猿ヶ山、人形山、金剛堂山の吹き溜りの深雪地にもこの小群団が生育している。

樹形は一般に雪圧のため曲幹で、樹高も低いものが多い。稜線部の生育地は、冬期季節風の第1線であるため、単木の群落である。

低木にはチシマザサが多く、ノリウツギ、ミネカエデなど、林床にはシラネワラビ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、コミヤマカタバミなどの他、ブナクラスの低木草本が多く生育している。

また、笈ヶ岳、大笠山付近の、雪崩のない安定した稜線の風衝地にオオシラビソ群集が、単木または小群落で生育している。高木が生育することは少ない。

○カリヤスータテヤマスゲ群落

人形山の東側、標高1600m付近の稜線下、南東向きの30°~35°の急斜面に、この群落が生育している。ここは風背下の吹き溜りの深雪地で、融雪が遅く、春期の雪崩地域であるため、低木が生育しないで草地になっている。

カリヤス、タテヤマスゲが優占し、イブキゼリ、ニッコウキスゲ、ヒトツバヨモギ、オオバギボウシ、カラマツソウなどが生育し、チシマザサも草本の樹高である。その低層にミツバオウレン、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナが生育している。

大門山、白木峰などの標高1500~1600mあたりの雪崩地域にも分布している。

2. キャラボク群落

この群落は白木峰、金剛堂山、人形山の標高約1600mの頂上付近の稜線に、小面積で生育している。風衝地ほど樹高約4mと低い亜高木林となる。

低木にチシマザサが多く、アカミノイヌツゲ、オオカメノキ、ノリウツギなどが生育し、

草本層は植被率が低く、マイヅルソウ、ショウジョウバカマ、ツクバネソウ、シラネワラビ、ミヤマカンスゲなどが生育している。

ブナクラス域自然植生

3. ヒメアオキーブナ群集

夏緑広葉樹林のチシマザサーブナ群団は、標高約350~1600mの山稜、山腹斜面に広く生育するが、伐採により二次林か植林地に変わった所もあり、自然植生が減少している。

この群団の生育地のうち、深山の山稜山腹にマルバマンサクーブナ群集が生育し、それより低い標高約350~800mの安定した山腹斜面の適湿地に、ヒメアオキーブナ群集が生育する。

この群集は、小矢部市小白谷(標高100m)、俱利伽羅峠(270m)、高岡市二上山(210m)の低山地から、医王山、ブナオ峠、大門山、高坪山、戸田峰、唐堀山などの山地帯に広く分布している。特に、上平村西赤尾(350m)、皆葎、平村上梨、相倉、利賀村山の神峠などの山間集村地では、雪崩防止保安林として、また、八乙女山、赤祖父山、高落葉山などでは水源涵養林として保護されている。

この群集は、ブナが優占し、ヒメアオキ、コマユミ、ハイイヌガヤの群集標徴種の他イタヤカエデ、ミズナラ、ヤマハンノキ、ウワミズザクラ、アズキナシ、オオカメノキなど多くの随伴種が生育している。北陸多雪地の植物が多く、ユキツバキが高頻度に出現することが特徴である。また、二上山ではアカガシと小矢部市小白谷ではウラジロガシと共に生育している。

4. マルバマンサクーブナ群集

この群集はブナクラス域の中部から上限に至るまでの、山腹から稜線に広く分布している。また、それより標高の低い所でも比較的斜面勾配も強く土壌の浅い山腹や、風衝の頂上、稜線にも生育する。

風衝地でない八尾町戸田峰、上平村のブナオ峠から赤摩木古山、大笠山、笈ヶ岳などの東斜面、利賀川の源流域や水無山一帯などの群集は、樹高が20m以上の高木林で、植被率80~90%の純林の所もある。

この群集の高木・亜高木はブナが主で、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、ミズナラ、アズキナシ、ヤマモミジなどがわずかに混っている。低木にはチシマザサ、オオカメノキ、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ、ヒトツバカエデ、エゾユズリハ、コシアブラ、リョウブ、ヤマウルシ、オオバクロモジ、マルバマンサク、ナナカマド、ムラサキヤシオツツジ等多くの樹木が生育し、草本には、タケシマラン、ツバメオモト、ツクバネソウ、シラネワラビ、イワハリガネワラビ、シノブカグマ、オクモミジハグマ、ショウジョウバカマ、ヤマソテツ、ミヤマイタチシダ等が生育している。

また、山頂稜線などの風衝地の医王山、袴腰山、猿ヶ山、大門山、人形山、金剛堂山、白木峰などには、風衝低木林が生育し、樹高は4～7mで、植被率30～50%と低い。

このブナ風衝低木群落はブナが優占し、アカミノイヌツゲ、ウスユキハナヒリノキ、ウラジロハナヒリノキ、ホツツジ、コバノイヌツゲ、ミネカエデ、チシマザサ、マルバマンサク、オオカメノキ、ナナカマド、タムシバ、コミネカエデ、ムラサキヤシオツツジ、ハクサンシャクナゲ、リョウブ、ウラジロヨウラクなどが生育し、草本にはマイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、ショウジョウバカマ、ツクバネソウ、イワカガミ、トクワカソウなどが生育している。

5. スギブナ群落（スギ天然林）

天然性のスギは、耐積雪性の強い北陸特有のアシオスギで、この群落は県東部に多く、中部、南西部では少なく、低山には生育しない。今回の調査地域では集塊岩、凝灰岩質の八尾町夫婦山、祖父岳、日尾御前の他、戸田峰、城端町縄ヶ池などに分布し、奥医王山、白木峰などには単木的に生育している。この群落は主に標高750～1300mの山頂、山稜のミズナラ群落からブナ群落の生育域に、伐採を免れて残存している。風衝地が少ないため、樹高が高く、笠状の樹冠の高木は少ない。植被率は50～70%と少ないところもあるが、日尾御前や祖父岳の一部には植被率90%に達するところもある。

高木には、高度差によりブナ、ミズナラなどが混交し、低木にはホンシャクナゲ、アカミノイヌツゲ、タムシバ、ホツツジ、ハウチワカエデ、リョウブ、ノリウツギ、オオカメノキ、コシアブラ、オオバクロモジ、ヒトツバカエデ、マルバマンサクが生育し、ユキツバキ、ヒメアオキの多い所もある。草本には、ヤマソテツ、トクワカソウ、シノブカグマ、ツルアリドウシ、ホソバノトウゲシバ、アクシバなどが生育している。

6. アカミノイヌツゲクロベ群集

この群集は県東部に広く分布しているが、当地域には稀れで、人形山の標高約1600m付近に生育し、単木的には大獅子山とその付近、石川県境から境川上流に分布している。人形山のこの群落はブナ、ミズナラの高木の伐採後の亜高木で、樹高8m、植被率80%である。

クロベ林にブナ、ミズナラが混り、低木にはクロベ、アカミノイヌツゲ、ホツツジ、ヤマウルシ、オオカメノキ、ツリガネツツジ、タムシバ、ミネカエデ、コシアブラ、マルバマンサク、ウスユキハナヒリノキ、オオバスノキなど、草本にはヤマソテツ、マイヅルソウ、イワカガミ、ゴゼンタチバナ、ミヤマカンスゲ、ショウジョウバカマ、ツクバネソウ、シノブカグマ、シラネワラビなどが生育している。

○ホンシャクナゲヒノキ群集

この群落は県内では県南西部にのみ生育し、上平村葎島、小谷、庄川支流境川源流、袴

腰山東斜面、大獅子山などに小群落がある。

大獅子山の群落は、樹高15~20mで植被率は70~90%である。高木はヒノキにヒメコマツ、ネズコが混り、低木にホンシャクナゲ、アカミノイヌツゲ、タムシバ、リョウブ、ネジキ、タカノツメ、コミネカエデ、オオバスノキなど、草本にトクワカソウ、アクシバ、ウスユキハナヒリノキ、イヌツゲ、ツルアリドウシなどが生育している。

○クロベ-ヒメコマツ群落

この群落の多くは伐採されているため、標高400~1600mあたりの稜線や、岩石急斜面に部分的に残存している。上平村皆葎谷、小谷、庄川支流境川源流、人形山、大門山などに小群落で分布している。

7. ジュウモンジシダ-サワグルミ群集

この湿性溪谷林は、谷の崩壊堆積地や崖錐台地、小扇状地の湿性地に生育するが、標高300~800mの地域はスギ植林地などになっている。ブナ峠から小矢部川の源流域、大門山からの崩壊堆積地に広い生育地がある。この群落は純林に近く、樹高22m、植被率80~90%である。高木、垂高木にサワグルミの他、トチ、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、ホオノキ、ウワミズザクラ、低木にミヤマイボタ、サワフタギ、エゾアジサイ、ミズキなど、草本にリョウメンシダ、ミヤマイラクサ、ジュウモンジシダ、オオアキギリ、アカソ、テンニンソウ、ミヤマベニシダ、サカゲイノデ、ミゾシダ、カメバヒキオコシ、ウワバミソウ、コミヤマカタバミなどが生育している。

また、平村猫池縁の水積台地のサワグルミ群落は、高木にサワグルミ、低木にサワフタギ、ミヤマカワラハンノキ、ノリウツギ、ミヤマイボタ、ケナシヤブデマリ、エゾアジサイ、ハイイヌツゲなど、草本にエゾシロネ、カメバヒキオコシ、サトメシダ、リョウメンシダ、ミヤマベニシダ、ヤマドリゼンマイなどが生育している。

○ミヤマイボターヤブデマリ群落

平村猫池のサワグルミ群落に続いた湿地に、サワフタギの優占する低木群落が生育する。この群落は、ミヤマイボターヤブデマリ群落より湿地に生育し、低木にミズキ、ミヤマイボタ、ケナシヤブデマリ、草本にミヤマベニシダ、リョウメンシダなどが生育している。

ミヤマイボターヤブデマリ群落は、平村細尾峠付近、城端町縄ヶ池などに小面積で分布しており、低木にはミヤマイボタ、ヤブデマリ、ミヤマカワラハンノキ、サワフタギ、草本にはリョウメンシダ、テンニンソウ、タニセリモドキ、オオアキギリ、ミヤマベニシダなどが生育する。

この群落の生育地よりもっと乾性化すると、クロツバラ群落が生育し、城端町縄ヶ池に見られる。

○トチノキ群落

この群落は標高約400~800mに分布し、ヒメアオキ-ブナ群集、ミズナラ群落の下部の

安定した斜面に生育する。利賀村山の神の群落は雪崩防止林、井口村赤祖父山の群落は、水源涵林として保存されており、相倉その他にも小群落が分布する。樹高約25m、植被率80~90%、直径1mに達する群落もある。

高木にはブナが多く、ミズナラ、サワグルミがわずかに混る。低木はハイイヌガヤ、ウリノキ、ツリバナ、ミヤマハハソ、ハナイカダ、ヒメアオキ、オヒョウ、エゾアジサイなどが生育し、草本はリョウメンシダ、ジュウモンジシダ、ミゾシダ、サカゲイノデ、チゴユリ、ホウチャクソウなど適湿地、湿性地の植物が生育する。

8. ドロノキーオオバヤナギ群落

八尾町久婦須川の標高約500mの河川敷と、その河岸にオオバヤナギの疎林の群落がある。樹高約15m以下、植被率70%で、低木にオノエヤナギ、タニウツギ、ミヤマカワラハンノキ、ヒメヤシャブシなど、草本にシシウド、イタドリ、オオヨモギ、アカソ、テンニンソウなどが生育する若い群落である。

ドロノキは庄川河敷に生育していたが、今はダム建設で消滅している。

9. ヤマハンノキ群落

ブナオ峠より小矢部川源流、標高800~900mの崩壊台地に生育するサワグルミ群落より乾性な所に、部分的にヤマハンノキ群落が生育している。樹高約20m、植被率80%、高木にヤマハンノキ、シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、サワグルミなど、低木にヤマモミジ、タニウツギ、オオバクロモジ、エゾアジサイ、ノリウツギ、イタヤカエデ、ハイイヌガヤ、ウリハダカエデなど、草本にアカソ、シシウド、ヤマブキシヨウマ、リョウメンシダ、ジュウモンジシダ、テンニンソウ、トリアシシヨウマなどが生育している。

城端町小瀬峠付近や周辺の谷間に分布するブナ群落、ミズナラ群落などに単木的に混生し、広く生育している。

10. ヒメヤシャブシータニウツギ群落

山地崩壊急斜面、堆積台地、谷沿い、河床などの乾性な荒地にこの群落が生育する。

大門山東側急斜面の雪崩地域のこの群落は、ヒメヤシャブシ、タニウツギ、ミズナラの低木群落でカリヤスが多く生育している。このような群落は医王山、人形山、庄川小矢部川の谷の部落からやや離れた萱場放棄跡地にも、小面積で分布している。

医王山の乾性な荒地に分布するこの群落は、ヒメヤシャブシ、タニウツギが多く、バッコヤナギ、ハッコヤナギ、ナナカマドが混り、草本にオトコエシ、アカソ、オオヨモギ、ヨツバヒヨドリ、ゴマナ、フキ、カリヤス、ススキなどが生育する。この地域が堆積台地であることから、ミズナラ群落に遷移するものと考えられる。このような群落は平村、上平村、利賀村、城端町、庄川町などの谷沿いに小面積で分布している。

低山の林道建設による南向き法面の急斜面はより乾性で、キツネヤナギ、タニウツギが優占し、バッコヤナギ、ヤクシソウ、アキノキリンソウなどが疎に生育するキツネヤナギータニウツギ群落 distributes。この群落は、八尾町、呉羽山、庄川町、福光町、小矢部市など各地に見られる。

○ウワバミソウーミヤマカワラハンノキ群落

山地崩壊急斜面下部やその堆積台地、谷沿いの湿性地に、この群落が生育する。平村、城端町、利賀村、庄川町、八尾町など各地に小規模な群落 distributes。

医王山のこの群落は、ミヤマカワラハンノキが優占し、タニウツギ、ヒメヤシャブシ、草本にオオヨモギ、アカソ、フキ、オオアキギリ、ヒキオコシ、テンニンソウ、ヤマブキショウマ、トリアシショウマ、シシウドなどが生育している。

11. フジアザミーヤマホタルブクロ群集

この群集は庄川流域、百瀬川上流、利賀川上流水無、白木峰などに分布し、急斜面の崩壊崖面やその下部堆積地に生育する。百瀬川の上流の崩壊性崖面は、斜面勾配は 40° の急斜面で、植被率30%、フジアザミ、ヤクシソウ、アカソ、フキ、コウゾリナ、ススキ、クサボタンなどの小群落が稀に生育している。

12. オオヨモギーオオイタドリ群団

この群団は、オニジモツケーオオヨモギクラス(山地高茎広葉草原)に属し、山地の谷間の積雪が多く融雪のやや遅い所や、崩壊堆積斜面などに生育する。

○ミヤマシシウドーオオイタドリ群落

この群落の生育地は、山地崩壊斜面下部の堆積地や、谷間の緩い堆積台地で、湿性で肥沃な土地であり、融雪が遅いため樹木は殆ど生育しない。

この群落にはミヤマシシウド(またはシシウド)、オオイタドリ、オオヨモギ、ナンブアザミ、ヒキオコシ、ウド、テンニンソウ、サカゲイノデ、キツリフネなどが生育しているが、今回の調査地域にはオオイタドリは生育しないで、イタドリが生育している。この群落は、雪の吹き溜りなどの積雪量の多い所に、狭い範囲で分布している。

平村のこの群落には、ミヤマシシウドが優占し、タニセリモドキ、クサソテツ、ナンブアザミ、オオヨモギ、ヒキオコシ、イタドリ、テンニンソウ、ウド、ミヤマカラマツなどが生育している。

○アカソーヤマヨモギ群落

ミヤマシシウドーオオイタドリ群落に似た立地であるが、崩壊斜面やその堆積台地に礫が多く、やや乾燥し栄養分も少ない斜面に、小面積で分布している。

平村のこの群落には、アカソ、オオヨモギ、テンニンソウ、カラムシ、ミズヒキ、フキ、ヤマイヌワラビ、ヤマニガナ、オカトラノオなどが生育している。この群落には、この他

にミヤマトウバナ、イタドリ、シシウド、ヒキオコシ、ジュウモンジシダなどが生育する。融雪のやや早い所には低木が侵入しやすく、ミヤマハンノキ、タニウツギ、ヤナギ類、ヒメヤシブシなどが生育し、これらの低木群落に変る可能性がある。

○オニシモツケ群落

この群落は標高2000 m以上の高山地帯にも生育するが、今回の調査地域には高山がないので、この群落は殆ど分布しない。

利賀村水無平のやや湿性地のこの群落には、オニシモツケが優占し、ミヤマセンキュウ、ハンゴンソウ、マルバダケブキ、タチカメバソウ、ヤマトリカブト、サンリンソウ、サラシナショウマ、カニコウモリ、サンカヨウ、ミヤマスマレ、サワオトギリなどが生育している。

○ハンゴンソウ群落

オニシモツケ群落と同じ所に、ハンゴンソウの優占する群落がある。この群落はオニシモツケ群落に含まれると思うが、やや湿気の少ない、乾く所に生育する。ハンゴンソウ、オニシモツケ、オタカラコウ、ミヤマシシウド、ヤマヨモギ、ミヤマシラスゲ、オオバミゾホウズキ、サンリンソウ、サドスゲ、シモツケソウ、ミヤマタムラソウなどが生育している。

13. イヌシデーアカシデ群落（イヌシデーアカシデ自然林）

アカシデ群落は標高約400 mまでの、谷間の岩石崖や丘陵台地斜面に生育する。神通峡谷、宮川峡谷では、ウラジログシ群落やケヤキ群落の構成種であったり、隣接して群落が生育する。細入村片掛の神社のアカシデ林は、高木にアカシデ、ケヤキ、アズキナシ、コナラ、アサダ、アカマツなど、亜高木・低木にアカシデ、ヤマモミジ、チャボガヤ、ヒメアオキ、ユキバタツバキなどが生育している。小杉町日の宮神社の境内林はウラジログシの多い群落と、アカシデの多い群落が隣接している。このアカシデ群落の高木にはアカシデが優占し、ウラジログシ、アズキナシ、低木にヒサカキ、ヒメアオキ、ヤブツバキ、草本にベニシダ、ヤブコウジ、キッコウハグマ、ジャノヒゲなどが生育している。小矢部市俱利伽羅峠ではブナ林に隣接して、アカシデの亜高木林があり、アカシデ、コナラ、アズキナシなどが生育している。その他各地に小群落が分布している。

イヌシデ群落は、氷見市沿岸のスタジイ群落内や、呉羽山、氷見市森寺城址に生育している。氷見市森寺城址のイヌシデ群落は、低い稜線に樹高約15 m、植被率95%の純林で、その他高木にコナラ、アカシデ、アズキナシなど、低木にヒサカキ、ミヤマガマズミ、ヒメアオキ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、コマユミ、ヤブツバキなど、草本にヤブコウジ、チゴユリ、リュウノヒゲ、ベニシダなどが生育している。

14. ケヤキ群落

○チャボガヤケヤキ群落

この群落は標高 200～800 mあたりの、谷間入口近くの溪谷の急斜面に、保安林の状態
で、山地では崩壊や雪崩防止のために、部分的に生育しているが巨木群落はない。標高
500 m以上の山地の群落は、八尾町大長谷川上流、山田川上流、利賀川上流、庄川流域そ
の他に分布している。

利賀村の群落では、高木にケヤキが優占し、イタヤカエデ、ハリギリが混り、亜高木・
低木にサワシバ、ヤマモミジ、ハイイヌガヤ、ツリバナ、ミヤマハハソ、サンショウ、ハ
クウンボク、コマユミ、ヒメアオキ、ミヤマイボタなど、草本にサカゲイノデ、クジャク
シダ、ヒメノガリヤス、ジュウモンジシダ、トリアシショウマ、コンノホンモンジスゲな
どが生育する。

八尾町内名谷のこの群落には、高木にケヤキ、低木にヤマモミジ、コマユミ、ハイイヌ
ガヤ、ウツギ、ヤマブキ、チャボガヤその他、草本にジュウモンジシダ、テンニンソウ、
ハルユキノシタ、クジャクシダなどが生育している。

井波町八乙女山麓の林道建設の安山岩の崖面に、ヤマブキ群落があり、ヤマブキ、ヤマ
ヨモギ、アカソ、イワテトウキ、ノコンギク、アキカラマツ、ヒメノガリヤス、ツルキジ
ムシロなどが生育し、ケヤキ群落の前群落の生育状況である。

○ケンボナシケヤキ群落

この群落は、神通峡、宮川峡、八尾町各河川の急斜面、山田川、庄川峡、庄川町、井波
町、福光町、小矢部市など、標高約 200～300 mあたりの岩石斜面や山間部落周辺の急斜
面に部分的に分布している。

八尾町下ノ名の群落は、高木にケヤキが優占し、ケンボナシ、エノキなどが混り、亜高
木・低木に、ヤマブキ、コマユミ、ヤマモミジ、ヒメアオキ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ
やその他谷間の低木が生育し、草本にオオバジャノヒゲ、エビネ、サイハイランなどで肥沃
で適湿地の植物が生育している。

宮川峡の西加賀沢の岐阜県境近くでは、高木にケヤキ、アカシデ、アサダ、フジキ、ケ
ンボナシ、亜高木・低木にクマシデ、サワシバ、ウラジロガシ、ブナ、チャボガヤ、ユキ
バタツバキ、ヤマブキなど、草本にミヤマカンスゲ、サカゲイノデ、クジャクシダ、ジュ
ウモンジシダ、ヒトリシズカ、ハルユキノシタなど生育し、暖温帯、峡谷の植物も生育し
ている。

○アサダ群落

細入村神通峡庵谷付近、片掛、宮川峡蟹寺白山社、西加賀沢県境付近にアサダ群落が小
面積に残存している。高木にアサダ、ケヤキ、ケンボナシ、アカシデ、シナノキなど、亜
高木・低木にアカシデ、クマシデ、サワシバ、オオモミジ、チャボガヤ、ミヤマガマズミ、
ヤマブキ、ハイイヌガヤ、メグスリノキ、ウリノキ、サンショウ、ムラサキシキブなど、

草本にオクマワラビ、ジャノヒゲ、クジャクシダ、ヒトリシズカ、コタニワタリ、ヒロバ
スゲ、サイハイラン、ヤマイトチシダなどが生育している。岩崖地域は樹木の発育が悪く、
植物の種類数も少ないが、白山社では70種類も生育している。

○オニグルミ群落

標高 200～500 mあたりの、峡谷河川が蛇行する時、凸部にケヤキ群落、凹部の斜面
にオニグルミ群落が生育することが多い。また、浅い谷間や緩い斜面にも小面積で生育す
る。生育地は細入村の宮川峡、八尾町の各河川の谷間、山田村、庄川峡、小矢部川の刀利
ダムの下流域、上流の中河内付近に広く分布する。

しかし、この群落の生育地は湿性地で肥沃であるので、すでにスギの植林地になっ
ていく所が多く、また今後スギの植林地になる可能性がある。上平村庄川支流の桂のこの群落
は、オニグルミの純林で、つる性植物が多く生育している。コマユミ、ケナシヤブデマリ、
ニワトコ、ノイバラ、キイチゴの他、草本には高茎広葉草本が多い。

一般にこの群落は二次林になっており、ヤマハンノキ、ホオノキ、タニウツギ、アカソ、
カラムシ、シシウドなどが生育している。

15. ブナーミズナラ群落

この群落のミズナラ群落は、標高 300～1100 mまでの稜線、頂上、中腹斜面に広く生育
し、高海拔地ではブナと混生し、低海拔地ではコナラ又はアカマツと混生する。これらの
群落は古くから人に利用された二次林か、放置された持続群落である。

近年この群落は、利賀村水無では約 1300 mあたりまで、その他の町村では約 900 m
あたりまでスギの植林地に変わってしまっているところが多い。

○オオバクロモジミズナラ群集

この群集のミズナラ群落は、細入村の洞山、唐堀山など、八尾町の日尾御前、大長谷川
の源流、白木峰など、山田村牛岳、利賀村、平村、福光町医王山などに広く分布している。
日尾御前のこの群落は樹高約 25 mあるが、一般的には 20 m前後である。

植被率は 80～90 %で、植生は高木にミズナラ、ホオノキ、イタヤカエデ、ハリギリな
どの他、シナノキ、アズキナシ、ヤマハンノキ、コシアブラナなど、低木にオオバクロモジ、
ハイイヌガヤ、ヒメアオキ、ユキツバキ、エゾユズリハ、チャボガヤ、ハウチワカエデ、
コハウチワカエデ、ヤマモミジ、リョウブ、ヤマウルシ、ナナカマドなど、草本にミヤマ
カンスゲ、トリアシショウマ、シンガシラ、ショウジョウバカマその他多くの植物が生育
する。

○ホツツジミズナラ群落

ミズナラ群落の生育地で角岩、集塊岩などの急斜面の表土の浅い乾燥地にこの群落が生
育する。この群落は県東部では峡谷に生育するが、県西部では少なく、平村庄川峡、八尾
町夫婦山、祖父岳などに分布している。

夫婦山のこの群落は、ミズナラ、ホツツジ、サイゴクミツバツツジ、オオカメノキ、タムシバなどで種類も少ない。

○ミズナラ風衝低木群落

この群落はミズナラ群落の山頂、稜線の風衝地に出現する。庄川町牛岳のこの群落は、樹高4 m、植被率70~80%で、低木にはミズナラ、シナノキ、リョウブ、マルバマンサク、オオカメノキ、タムシバ、オオバクロモジ、ナナカマド、アズキナシ、ユキツバキなど、草本にはトクワカソウ、ミヤマカンスゲなどが生育している。分布は八尾町夫婦山、城端町袴腰山、福光町医王山などである。

○マルバマンサク群落

ミズナラ風衝低木群落の生育地より、もっと強い風衝の山頂山稜にこの群落が生育する。夫婦山のこの群落は、樹高が1.5 m、植被率は90~100%で、低木にマルバマンサク、ヤマボウシ、アカミノイヌツゲ、イヌツゲ、ヒメアオキ、ユキツバキ、ウスユキハナヒリノキ、リョウブ、タムシバ、アズキナシ、コマユミなど、草本にホソバカンスゲ、ツルアリドウシ、トクワカソウなどが生育している。このような群落は細入村洞山、袴腰山、医王山、人形山、利賀村高峰などにまれに分布している。

○サラサドウダン群落

風衝低木群落のサラサドウダン群落が、平村人形山への稜線に生育している。樹高は1.5 m、植被率は90~100%で、サラサドウダン、オオコメツツジ、アカミノイヌツゲ、イヌツゲなど乾燥地に生育する低木や、イワカガミ、ゴゼンタチバナ、コシジオウレンなどの草本が生育している。

○オオコメツツジ群落

風衝低木群落のオオコメツツジ群落も人形山に生育している。樹高は1 m、植被率は90~100%で、オオコメツツジ、アカミノイヌツゲ、マルバマンサク、リョウブ、ハナヒリノキ、オオバスノキなど、乾燥地に生育する低木や、イワカガミ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、アカモノ、ミツバオウレンなどの草本が生育している。この群落は強い風衝地でなくても、岩石乾燥地でも生育するし、金剛堂山、白木峰などの風衝湿性地上にも生育する。

○オクノカンスゲーチシマザサ群落

ブナクラス域の稜線東側の、冬期季節風の風背になる緩い斜面に、吹き溜りの堆積雪地ができる。ここは融雪が遅いために高木が生育できず、チシマザサ群落が小面積で生育する。白木峰では樹高2 m、植被率100%で、チシマザサの純群落である。その中にわずかのオオカメノキ、ナナカマドなどの低木、ホソバカンスゲ、マイヅルソウ、ミヤマカタバミなどの草本が生育する。この群落は他に、大獅子山、猿ヶ山、袴腰山、金剛堂山、戸田峰などに分布している。

16. クマシデ群落

この群落は、主に標高 200~800 m の峡谷の急斜面の角岩の露出するような、浅い土壌の乾燥地に多く生育する。庄川町牛岳北斜面の谷間、利賀川の利賀ダム下流域の谷の急斜面に多く、その他福光町医王山東斜面の谷間の急斜面、大門山東斜面などに分布している。利賀村のこのホツツジークマシデ群集には、クマシデ、ホツツジ、ホソバカンスゲ、トクワカソウの他、高木亜高木にアカシデ、ミズナラ、イタヤカエデ、ハクウンボク、低木にサワシバ、マルバアオダモ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、オオバクロモジ、サイゴクミツバツツジ、コマユミ、ヤマツツジ、チャボガヤ、草本にオクモミジハグマ、ヒメカンスゲ、アキノキリンソウ、シシガシラ、クジャクシダ、コシノホンモンジスゲなどの多くの植物が生育している。この群落はオオバクロモジ—ミズナラ群集の、土地的極相林として生育している。

17. ササ草原

ササ草原のチマキザサやクマイザサ草原は、標高 100~400 m 付近の、沖積台地、山麓斜面のコナラ群落などの伐採跡地やその林縁に生育している。八尾町、婦中町、小杉町、福野町、小矢部市、高岡市二上山、氷見市などに小面積に分布している。伐採跡地には、ササが純群落か優占群落になっており、その他わずかにコナラ、リュウブ、ヤマウルシ、ヌルデ、タニウツギ、キツネヤナギ、キンメヤナギ、バッコヤナギなどが生育している。

チシマザサ草原は、オクノカンスゲ—チシマザサ群落として深山積雪地に生育し、金剛堂山、白木峰など各地に生育している。それよりも低海拔地では、ミズナラ群落の伐採跡地に小面積で部分的に存在する。そのような場合、チシマザサの優占する中に、ミズナラ、オオバクロモジ、ヤマウルシ、マルバマンサク、ユキツバキ、ウリハダカエデなどの低木、ミヤマカンスゲ、トリアシシウマ、ショウジョウバカマ、ヤマソテツ、シシガシラなどの草本が生育している。

18. 伐採跡群落

自然植生を伐採するのは木材生産が目的で、ブナ林、ミズナラ林などの伐採跡地は、昔は二次林として放置されたが、今ではその跡地はほとんどスキの植林地になっている。

まれに小群落が残存することがあり、利賀村百瀬川上流のミズナラ林伐採跡の群落では、高木、亜高木が伐採されてミズナラ低木群落が残っている。低木にミズナラ、ヤマモミジ、チシマザサ、ヒメアオキ、ユリハダカエデ、ハイイヌガヤ、ツリバナ、オオバクロモジ、アズキナシなど、草本にカンスゲ類が多く残存している。

一般に皆伐した跡地は直ちに植林されるが、その周辺や林道周辺の未利用地に、ヤナギ低木群落、クマイチゴータラノキ群落、クサギ—アカメガシワ群落、ミヤマカワラハンノキ群落、ヤマハンノキ群落として残ることもある。

人形山の陽光の未利用地に、クマイチゴータラノキ群落があり、低木の樹高は1 m、植被率は50%で、クマイチゴ、タニウツギ、リョウブ、タラノキなど、草本の植被率は60%でテンニンソウ、ヒヨドリバナ、ヤマニガナ、オトコエシ、オカトラノオなどが生育している。また、低木にクマイチゴ、クサギ、キイチゴなど、草本にアカソ、ヤマヨモギ、ハクサンアザミ、シシウド、ゴマナ、ヒキオコシなどが生育するところもある。

ヤブツバキクラス域自然植生

19. ヒメアオキーウラジロガシ群集

この群落は、標高40~300 mの丘陵地斜面や、峡谷入口から中流域の角岩などの急斜面に、社寺林、崩壊防止保安林として残存している。生育地は、神通峡、宮川峡、八尾町下の茗の室牧川、山田川などの峡谷林、八尾町細滝、婦中町常楽寺、小杉町日の宮神社などの社寺林である。

一般に高木の樹高は15~20 mで、植被率は80~90%のウラジロガシの純林が多く、わずかにアカシデ、ケヤキ、ケンボナシ、イタヤカエデ、クマノミズキ、コナラ、アズキナシなどが生育している。低木にはユキバツバキが多く、チャボガヤ、ヒメアオキ、ヒサカキ、ヤマモミジ、ムラサキシキブ、ハイイヌガヤ、マルバマンサク、ミヤマガマズミ、コマユミ、ダンコウバイなど、草本にベニシダ、ヤブコウジ、クマワラビ、ジャノヒゲ、トウゲシバ、キッコウハグマ、コシノホンモンジスゲ、テイカカズラ、ミヤマカンズゲ、クジャクシダなどの植物が生育する。

20. ケヤキ群落

この群落は海岸山麓から標高200 mあたりまでの山麓、扇状地の河岸段丘の崖面にシロダモケヤキ群落として、小面積で部分的に生育している。潜在植生域は上記地域の他、扇状地の適湿地、屋敷林など広い範囲にわたるが、シロダモは木材価値が少ないので、幼樹から亜高木になるまでに除去されて群落として存在しにくい状況にある。

魚津市大海寺野の群落は、河岸段丘の崖面崩壊防止の保安林として残存しており、高岡市石堤の浅井神社の境内林も、裏山の崩壊、雪崩防止の保安林の役目を持っている。

高木の樹高はケヤキで20~25 m、植被率は80~90%で高木にはケヤキ、シロダモ、エノキ、クマノミズキ、エゴノキ、ウワミズザクラが生育している。低木にはヤブツバキ、ヒサカキ、ヒメアオキ、ガマズミ、アカメガシワ、ムラサキシキブ、ハナイカダ、サンショウ、ウコギが、また草本では、ベニシダ、ヤブラン、ジャノヒゲ、オモト、オクマワラビ、ヤブコウジ、キチジョウソウ、ヒロバスゲ、イノデ、シャガ、ウマノミツバなどの多くの林床植物が生育し、暖温帯の植物が多く混じっている。

21. ヤブコウジースタジイ群集（スタジイ群落）

この群落は、氷見地方の海岸近くの山麓斜面の枝尾根や急斜面の乾燥地に、境内林、崩壊防止保安林として残存している。分布しているのは、氷見市脇方、泊、小境、中波などの境内林、国道160号線の崖上、部落後背地などである。

これらの群落は、高木の樹高が約15m前後、植被率は80~90%でスタジイの純林が多い。その他高木にタブノキ、イヌシダなど、亜高木にヤブツバキ、モチノキ、シロダモ、ユズリハ、スタジイなど、低木にヤブツバキ、ユズリハ、シロダモ、ヒサカキ、オオムラサキシキブ、ツルグミ、トキワアケビ、イタビカズラなど、草本にベニシダ、トウゴクシダ、ジャノヒゲ、ヤブラン、ヤブコウジ、オオバイノモトソウ、ホンダ、フモトシダ、テイカカズラ、イノデ、トラノオシダ、オクマワラビなどがそれぞれ生育している。

この群落に属するアカガシ群落が、氷見市仏生寺三千坊山に生育している。アカガシの純林に高木のアオハダ、ウラジロノキ、亜高木のネジキ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ソヨゴなど、低木のヒサカキ、サイゴクミツバツツジ、オオバクロモジ、ホツツジ、ヤブツバキなど、草本のシシガシラ、ヤブコウジ、トキワイカリソウなどが生育している。また、この地域にはモチノキ群落も分布しており、この群落は富山市呉羽の姉倉比売神社にも生育している。

22. イノデータブ群集

この群落は、スタジイ群落生育地の下部緩斜面や、山麓下部斜面の肥沃で適湿地に生育する。高木の樹高は約15m、植被率は80~90%で、タブノキ、シロダモ、ヤブツバキ、ケヤキ、エノキ、クマノミズキなどが生育している。また、低木にはヤブツバキ、ヒメアオキ、ユズリハ、オオムラサキシキブ、イタビカズラなど、草本にはイノデ、アイアスカイノデ、オモト、ヤブソテツ、オクマワラビ、キチジョウソウ、ジャノヒゲ、ベニシダ、カラタチバナなどの植物が生育している。分布は氷見市阿尾、小境、大境、虻ヶ島などで、単木的には海岸山麓や、それより奥地まで広く生育している。

○ヤブニッケイ群落

イノデ群落に含まれるこの群落は、氷見市夕日神社に生育している。高木の樹高は15m、植被率は80%で、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、ケヤキ、シロダモ、タブ、エノキなどが生育している。また、亜高木にはヤブニッケイ、ヤブツバキ、シロダモ、ユズリハ、モチノキ、タブなど、草本にはヤマヤブソテツ、オオキヨスミシダ、ヤブコウジ、ヤブラン、オオバイノモトソウ、ジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ、テイカカズラ、イタビカズラ、ホンダ、オニヤブソテツ、オモト、アイアスカイノデなど、暖温帯の植物が多く生育している。

○ユズリハ群落

富山湾海岸に近い各種の植物群落に点在し、氷見地方のタブ群落などに特に多く混生する。氷見市磯部神社のこの群落の高木の樹高は約20m、植被率は95%でユズリハ、モミ、

ケヤキ、ウラジロガシが生育している。また、亜高木にヤブツバキ、ユズリハ、低木にヤブツバキ、オオムラサキシキブ、ハイイヌガヤなど、林床にヒメアオキ、ヤブラン、ジャノヒゲ、フユツタ、ユズリハ、チゴユリ、オオバジャノヒゲ、ベニシダ、ヤブコウジ、テイカカズラなどが、それぞれ生育している。この群落は富山市山本の神社の境内林にも生育している。

23. マサキートペラ群集

この群集は、氷見地方の阿尾城址、大境、蛇ヶ島などの海面に接した岩壁上部に、部分的に生育している。阿尾の群落はトペラの単純群落で、大境の群落は、低木にトペラ、ヤブツバキ、シロダモなど、草本にオニヤブソテツ、コモチシダ、ホシダ、サンインギクなどが生育する群落である。大境をはじめ海岸沿いに、この群落に生育するコモチシダ、オニヤブソテツ、ホシダの生育地があり、トペラ生育の潜在地となっている。

24. 河辺ヤナギ低木群落

富山平野の大部分は複合扇状地で、海岸地帯にデルタ平野がある。それで河川敷植生は、扇状地河川敷植生と、デルタ河川敷植生に区別できる。

デルタ河川敷には、高河川敷と低河川敷があり、高河川敷は礫の入らない泥土で肥沃であるため、大部分は畑地、レクリエーション用地になっている。その一部の未利用地にオギ群落、クサヨシ群落が生育している。低河川敷にはヤナギ群落、滞水域との境にヨシ群落、マコモ群落がそれぞれ生育する。このヤナギ群落は、カワヤナギ亜高木群落が多く、ヨシ群落の中に生育し、神通川河口付近に分布している。常願寺川、庄川の低河川敷で、洪水時に浸食されたり滞水したりする地域には、低木のカワヤナギ、シロヤナギ、イヌコリヤナギ、タチヤナギの各群落や、それらの混り合った群落が生育している。これらの群落内の草本は、乾燥地に生育するススキクラス、ヨモギクラス、湿地に生育するヨシクラスの植物が生育している。またこれらのヤナギ低木群落でコゴメヤナギの混じる群落は、扇状地河川敷内の古い流路にも細長く生育し、黒部川、常願寺川、神通川、庄川などに分布している。

デルタ河川敷と扇状地河川敷の境界あたりは、カワラハハコ群落やアキグミの生育地になっている。

扇状地河川敷の、流路の蛇行により出来た砂礫が堆積する荒地で、洪水時に冠水があるような地域には、数年後にカワラハハコ群落が成立し、その後アキグミ群落になる。また、冠水することが多くなって砂泥の堆積するところはヤナギ群落に変わる。

扇状地河川敷の下流から中流あたりまでは、シロヤナギ群落が多く、上流部ではコゴメヤナギ群落が生育し、これらの群落は、黒部川、片貝川、早月川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川に分布している。また、利賀村百瀬上流の乾燥荒地では、イヌコリヤナギ群

落もその間に生育している。一方、河道の変らない流路の周りにツルヨシ群落、またはネコヤナギ群落が生育し、神通峡、宮川峡、小矢部川上流まで分布している。扇状地河川敷ではチガヤ群落、メドハギ群落、コマツナギ群落からヤナギ群落に変わることもある。また、扇状地末端の古い用排水周りにアカネヤナギ群落が生育しているが、最近改修とともに少なくなってきた。

ヤブツバキクラス域代償植生

25. コナラ群落

この群落は、標高 100~400 m までの台地、低山に広く生育している。以前は定期的に伐採して利用された二次林であるが、現在ではスギの植林地として利用されている地域も多い。それでも各地の急斜面、山頂山稜や周辺斜面に残存している。

小杉町高津峰山のこの群落の高木の樹高は 15~20 m、植被率は 80~90% でコナラが多く、低木にヒサカキ、高海拔地のユキツバキ、低海拔地のユキバツツバキ、氷見地方のヤブツバキの各ツバキ、ヒメアオキ、コバノガマズミ、キンキマメザクラ、ムラサキシキブ、ミヤマガマズミ、コマユミ、ホツツギ、チマキザサまたはクマイザサ、オオバクロモジなど、草本にシンガシラ、ショウジョウバカマ、コシノホンモンジスゲ、シラヤマギク、ヒメノガリヤスなどが、それぞれ生育している。この群落にはアズキナシ、ヤマモミジ、ウリカエデ、ヤマザクラ、ソヨゴ、サイゴクミツバツツジ、タガネソウ、アキノキリンソウなどの日本海側の多雪地の植物も多く生育している。この群落は、風化土の浅い陽光乾燥の貧栄養地では、サイゴクミツバツツジ、オクチョウジザクラ、マルバマンサク、ホツツジ、リョウブなどが多く、適湿地の斜面ではチマキザサ、ヒメアオキ、タガネソウ、チゴユリ、ショウジョウバカマなどが多く生育している。

また、呉羽丘陵、八尾町の低山、小矢部市の低山などにはクリーコナラ群落が生育し、クリ、コナラが優占している。コナラ群落の斜面下部の適湿の斜面にウワミズザクラ群落、クマノミズキ群落、エゴノキ群落が生育することもある。

○アベマキ群落

コナラ群落の生育地の呉羽丘陵城山、婦中町高塚、福野町安居、小矢部市野端、高岡市二上山、氷見市論田などに、小面積にアベマキ群落が生育している。イヌシデ群落やコナラ群落の中に、クヌギなどと混生している所もある。この群落にクヌギ、クリ、コナラ、アカマツなどの高木、タニウツギ、エゴノキ、キンキマメザクラ、ヒサカキなどの低木の他、タガネソウ、チゴユリ、ワラビなどの草本が生育している。

また、クヌギ群落は氷見市基石ヶ峰付近、森寺、論田、小矢部市の低山などに分布し、コナラ、アベマキなどと混生している。

26. ススキ群団

この群団のススキ草原は、山地低山に局地的に広く分布している。その生育地は、崩壊地、自然荒地、人為的荒廃地、用水周り、河川敷、年数を経た放棄田（カドミウム汚染田など）、山地の萱場、植林地にするための伐採跡地、道路の法面、その他の造成地などである。この草原には成因により、二次草原、雪崩地での放棄萱場である持続草原、低木群落への遷移する過程の草原などに分けられる。低山の山地では八尾町、山田村、井波町、井口村、城端町、平村、上平村、福光町などに多く分布しているが、近年急激に植林地に変わりつつある。平村、上平村のススキ草原はカリヤス草原が主で、近年萱場として復活している所もある。

ススキ草原は普通二層の草原になり、医王山のススキ草原は人工荒地で、一層のススキ植被率は90%、二層はアキノキリンソウ、オカトラノオ、トリアシショウマ、ゴマナ、オオヨモギ、オトギリソウなどが生育し、やがてタニウツギーヒメヤシヤブシ群落に変わるものと考えられる。ススキ草原にはその他、ワラビ、ヤマハギなどのハギ類、トダシバ、ノアザミ、キンミズヒキ、ニガナ、キジムシロ、ゲンノショウコ、ウマノアシガタなどが生育する。

○シバ群落

乾燥荒地の河川敷や、人に踏みつけられる強い乾燥地などに、低茎禾本草原が部分的に生育し、その代表的群落はシバ群落である。この群落にはススキクラス、ヨモギクラスの植物が多く生育し、呉羽丘陵ではシバが優占し、メドハギ、ニガナ、カゼクサ、チカラシバ、ヤマハギの小苗が生育している。

○クズーカナムグラ群落

ノイバラクラスのこのつる性植物群落はヤブツバキクラス、ブナクラス域の代償植生として林縁に生育する。この群落には陽光性のつる植物のカナムグラ、クズ、アケビ、ヤマブドウ、オニドコロ、ヤマノイモなどの他、ヨモギクラスのヤブガラシ、ヤブマメ、ツルマメなどの植物が、低山丘陵地山麓に広く生育している。また、呉羽丘陵のこの群落は、ヨモギクラス、ススキクラスの植物と混生している。

○ヨモギ群落

この群落は、県内各地の山麓平野の路傍、荒地、畑地跡などに分布し、ヨモギの他、チカラシバ、ユウガギク、ノコンギク、ゲンノショウコ、スズメノヒエなどが生育している。呉羽丘陵の畑地跡のこの群落は、ヨモギが9割以上で、その他メヒシバ、スイバ、トウバナ、スギナなどの畑地植物が多く生育している。

○オオバコ群落

人による踏みつけがいつも行なわれている路上雑草群落の代表がオオバコ群落で、グラウンド、農道、林道、登山道などの適湿地に普遍的に生育している。呉羽丘陵のこの群落はオオバコが多く、その他シロツメクサ、カゼクサ、アキメヒシバ、セイヨウタンポポなど

が生育している。その他、この群落にはミチヤナギ、ギシギシ、スズメノカタビラ、カモジクサなどが生育することもある。

○カワラヨモギーカワラハハコ群落

黒部川、片貝川、早月川、常願寺川、神通川、庄川の扇状地河川敷で、増水時に侵食される砂礫乾燥荒地にこの群落が生ずる。この群落にはカワラハハコ、カワラヨモギ、メマツヨイグサの他、乾燥地に生育する植物が混っている。庄川河川敷では上記の植物の他、カワラナデシコ、ヤハズソウ、メドハギ、カワラマツバ、トダシバ、ススキ、ヨモギ、コマツナギ、カワラケツメイなどが生育している。

この礫原も冠水するにつれて泥土の堆積量が増加し、乾燥量も少なくなり栄養化が進む。すると、メドハギ群落、チガヤ群落、ヤナギ群落へと変る。一方、あまり泥土の堆積しない乾燥地は、カワラヨモギ群落からススキ群落、オトコヨモギ群落、コマツナ群落、アキグミ群落のいずれかに変化する。

27. ヤマツツジーアカマツ群集

アカマツの自生地は、海岸から標高400~600mの山地までで、それ以上ではヒメコマツの自生地になっている。以前は海岸砂丘の後背地、扇状地、丘陵山地に広く生育していたが、海岸砂丘に生育していたものも、入善町園家山、富山市浜黒崎、氷見市島尾以外にはなくなり、扇状地に生育していたものも、土地改良でなくなり、墓地、屋敷林にわずかに見られるだけである。

山地では、角岩地の急斜面や瘦尾根に自然生のヤマツツジーアカマツ群集が生ずり、他の丘陵地や山地のアカマツ林は、伐採がくり返された二次林である。植林地は婦中町平等付近にわずかにある程度で、年数の経たない二次林か植林地か区別できない群落もある。

自然性のヤマツツジーアカマツ群集は、小矢部川源流近くの標高600m付近や、上平村などにまれに生育している。二次林は全県的に広く分布しているが、氷見地方には割合少ない。

二次林のヤマツツジーアカマツ群集は、高木の樹高15~20m、植被率は60~80%で、高木 亜高木にアカマツ、コナラ、アズキナシ、ウラジロノキ、アオハダ、ソヨゴ、ヤマザクラなど、低木にヒサカキ、ヤマツツジ、ネジキ、ウスユキハナヒリノキ、ナツハゼ、ホツツジ、アキシバ、リョウブ、サルトリイバラ、サイゴクミツバツツジ、ザイフリボク、コマユミなど、草本にタガネソウ、シシガシラ、チゴユリ、ノヤマトンボソウ、ミヤマアブラソウ、クルマバハグマ、アキノキリンソウ、シュンラン、コシノホンモンジスゲ、ヒメカンスゲまたはホソバカンスゲなどがそれぞれ生育している。

○モミ群落

モミは氷見地方をはじめとして、県内各地に単木的に生育する。しかし群落として生育するのは、氷見市戸津宮の父宮神社の境内林ぐらいである。この群落は高木の樹高25m、

植被率90%で、モミ、アスナロ、スギが生育し、亜高木にヤブツバキ、ウラジロガシ、低木にヒサカキ、ウラジロガシ、シロダモ、スダジイなど、草本にヤブコウジ、ジャノヒゲ、ヤブランなどがそれぞれ生育している。

この群落はウラジロガシの代償植生であると考えられるが、境内林であるために保護されている。また、この群落に続いてアスナロ群落があり、これも県内ではまれな群落である。

河辺，湿原，塩沼地，砂丘植生（各クラス共通）

28. ヌマガヤオーダー（中間湿原）

県東部では池塘の周りに高層湿原植生が、その外側にヌマガヤオーダーの、イワイチョウ・ヌマガヤ群集、その外側に雪田植生のイワイチョウ・ショウジョウスゲ群集が生育している。ここではヌマガヤ群落はなく、ショウジョウスゲ群落の中にわずかにヌマガヤが生育している所が見られるだけである。

八尾町白木峰の頂上付近は、段差の少ない数段の平坦地と緩斜面からなっており、ここにいくつかの池塘があり、その周辺に高層湿原植生と、雪田植生が生育している。

○イワイチョウ・ショウジョウスゲ群集

この群落は雪が吹き溜りになる緩斜面や池塘周辺に生育している。イワイチョウ、ショウジョウスゲが優占し、ニッコウキスゲ、オオバギボウシ、コイワカガミ、コンジオウレンまたはミツバオウレン、コバイケイソウ、ショウジョウバカマ、オヤマリンドウ、チングルマなどが生育している。また、ヌマガヤ群落のタテヤマリンドウ、イワショウブなども生育している。

○ヒメジャクナゲ群落

この群落は八尾町小白木峰の頂上近くにある池塘の周辺に、小面積に生育している。ヒメジャクナゲはショウジョウスゲ群落内に生育することもある（太郎兵衛平、東笠山など）が、ここでは高層湿原植生のミヤマイヌノハナヒゲ、ミカツキグサ、ミズゴケ類の中に、ヒメジャクナゲが優占して生育している。

○キダチミズゴケ・ヤチカワズスゲ群集

高層湿原植生のこの群落は、白木峰のほとんどの池塘の周りに生育している。池塘の周りの低い池塘堤の内側に、狭い幅でキダチミズゴケ、モウセンゴケが優占し、その外側にヤチカワズスゲ、ミヤマイヌノハナヒゲ、イワイチョウがやや広く生育し、その中にミズゴケも生育している。

○ミヤマイヌノハナヒゲ・ミカツキグサ群集

この群落も白木峰の池塘の周りに生育しており、池塘堤にミヤマイヌノハナヒゲ、ミカツキグサが優占している。その他、ヤチカワズスゲ、ミズゴケ類、モウセンゴケが生育し、池塘内部にはイワショウブ、ワタスゲ、イワイチョウのヌマガヤ群落の植生も生育している。

○ミヤマホタルイ群落

白木峰のいくつかの池塘の中に、ミヤマホタルイのみが生育している植被率30%純群落が見られる。

○ミツガシワ群落

上平村小瀬の池の平に、湧水する湿地があり、その中心部の東よりにこの群落がある。東西に10m、南北に5mの群落で、ミツガシワの純群落にジュンサイ、ミズオトギリ、モウセンゴケなどが生育している。

○ミズゴケアゼスゲ群落

平村の山地に湧水により滞水する60m×40mの猫池がある。その池内に大小6個の浮島があり、大きい浮島は2m×5mの大きさで、風により池の中を移動している。この浮島はアゼスゲの純群落に、ホンバミズゴケ、エゾシロネ、ミズオトギリがわずかに生育している。

○オオミズゴケオオイヌノハナヒゲ群落

利賀村岩渕の谷内谷に、南北約80m、東西約25mのミズゴケの湿地がある。この湿地の南半分はこの群落が生育し、オオミズゴケの堆積の厚さが1m以上の所もある。この群落にはオオミズゴケの他、オオイヌノハナヒゲ、ミズオトギリ、ヒメシダ、トキノウ、ミカヅキグサなどが生育している。また、この群落は上平村小瀬の池の平の湿地、八尾町深谷の湿地などにも生育している。

○オオミズゴケヤマドリゼンマイ群落

この群落は利賀村岩渕の湿地の北半分には生育し、オオイヌノハナヒゲ群落よりやや乾燥傾向にある。オオミズゴケの中にヤマドリゼンマイ、カサスゲ、トキノウ、ヒメシダ、ミカヅキグサ、ミズオトギリなどが生育しており、この群落も上平村小瀬の湿地に生育している。

○オオミズゴケカサスゲ群落

この群落も利賀村岩渕の湿地に生育している。この湿地の一番外側にカサスゲ群落があり、オオイヌノハナヒゲ群落との間に細長い幅で、オオミズゴケとカサスゲの群落がある。その中にヒメシダ、ミズオトギリ、エゾシロネなどが生育している。また、上平村小瀬の湿地にも生育している。

○ノハナショウブ群落

利賀村岩渕の別の湿地の一部のオオミズゴケの中にノハナショウブの小群落が生育している。この群落の中には、カサスゲ、ヤマドリゼンマイ、ミズバショウ、ヒメシダなどが生育している。また、ノハナショウブは小杉町などの平地に近い山麓谷間の湧水地にも生育している。

○リュウキンカーミズバショウ群集

この群落は湧水縁植物群落に属するが、この表示番号で解説する。利賀村水無平のこの

群落は、湧水量に比例した生育域を持ち点在している。ミズバショウの優占する群落に、リュウキンカ、サドスゲ、ミヤマシラスゲ、コバイケイソウ、オニシモツケ、ハンゴンソウ、チョウジギク、ツルネコノメソウなどが生育している。この群落は県東部では一般に標高1400~2500mあたりに生育する群落で、ここの群落は最低海拔に生育する群落である。

○アイバソウーミズバショウ群落

この群落は普通1000~1400mあたりに生育し、県東部には数ヶ所分布するが、利賀村水無平にも一部生育している。ミズバショウの優占する群落に、アイバソウ、エゾシロネ、ヒメシダなどが生育している。

○ヨシーミズバショウ群落

この群落は前述の群落よりさらに低い標高700~1000mあたりに生育するミズバショウ群落で、春には一面のミズバショウ群落であるが、その後ヨシが伸長してヨシ群落になる。第一層のヨシの草丈が2mにもなり、第二層にミズバショウが優占し、その他オオニガナ、タチアザミ、コシロネ、ヒメシダなどが生育し、アゼスゲが生育することもある。城端町縄ヶ池に広く分布している。

○チョウジギクータヌキラン群集

山地の湧水や細流が、急流になったり落下したりする岩壁などに、流れに沿って細長くこの群落が生育している。庄川町牛岳のこの群落はタヌキランが優占し、チョウジギク、ダイヤモンドソウ、アブラガヤ、タネセリモドキ、タマガワホトトギスなどの湿地の植物が生育している。八尾町、福光町、小矢部市などの低山の山間部ではタヌキランとダイヤモンドソウ、またはタヌキランのみの単純群落になる。また、八尾町野積川上流などには、オオバミゾホウヅキーオタカラコウ群落が生育しており、ザゼンソウ群落も山間各地に生育している。

29. ヨシクラス（低層湿原）

○ウキヤガラーマコモ群落

氷見市十二町瀧のこの群落は、瀧と陸地との境に生育し、第一層にマコモ、ヨシ、ウキヤガラ、アメリカセンダングサ、タイヌビエ、第二層にミソソバ、イなどが生育している。ウキヤガラの生育しているのは県内でここだけで、マコモ群落は沼沢や用排水周辺に広く生育している。富山市田尻池ではマコモの純群落が多く、その他わずかにガンガレイ、シロネ、アシカキ、ミズオトギリ、ミソハギなどが生育している。

○サンカクイーコマガ群落

この群落は山麓の谷間の池沼の周辺や、緩い流水の用排水周辺に生育し、優占種はサンカクイまたはガンガレイで、コガマはほとんど生育していない。近年生花の影響でヒメガマが広く生育するようになってきた。小杉町綿打池のこの群落は、ガンガレイが優占し、ヌマハリイ、アゼスゲ、コウガイゼキショウなどが生育している。

○ホタルイ群落

山間や平地の緩い流れの用排水周辺や、池沼や谷間の長期放棄湿田や溝などに、この群落が生育することがある。富山市山本の谷間の放棄湿田に生育しているこの群落は、ホタルイが優占し、コウガイゼキショウ、サヤヌカグサ、アブラガヤ、アギナシ、ホンパノコウガイゼキショウ、ヘラオモダカ、チョウジタデなどが生育している。

○ヨシ群落

この群落は、池沼や緩い流れの用排水周辺に生育しているが、生活に必要ななくなったこと、湿地の埋立や土地改良などで、近年急激に生育地が減少してきている。小杉町綿打池のヨシ群落は、草丈2mのヨシの下層に、ヒメシダ、サヤヌカグサ、アキノウナギツカミ、アブラガヤなど、その下層にチゴザサ、ヌマトラノオ、コブナグサ、コケオトギリなどが生育している。

この群落は平野部に全県的に広く分布し、小矢部市、福岡町、小杉町などでは、この群落にガマが混じるか、この群落周辺にガマの純群落が生育するかしている。高岡市五十里、水見市仏生寺のこの群落の中か周りに、まれにタコノアシが生育している。

また、山間の急流周辺部にツルヨシ群落が生育し、細入村宮川、八尾町久婦須川、野積川、仁歩川、小矢部川上流、井波町の用水、子撫川などに広く分布している。

○セリークサヨシ群落

この群落は、黒部市生地、田家、石田、富山市東岩瀬、百塚、八幡、福岡町荒又川、岸渡川、小矢部市子撫川などの、流れの緩い用排水周辺や、扇状地旧河道のため池などに、小面積で生育している。この群落はクサヨシの生育地にセリ、シロネ、ヨシなどが生育するが、呉羽山のこの群落は造成地の湿地で、クサヨシ、ヨシ、アメリカセンダングサ、ヒメジソ、コブナグサ、スズメノヒエなど好湿性の植物が生育している。

○ミヤマシラスゲアイバソウ群落

平村猫池のこの群落は、ミヤマシラスゲ、アイバソウ、エゾシロネ、アゼスゲ、カサスゲなどが生育しており、山間の少ない湧水の湿地に分布している。その他、小杉町、婦中町、八尾町などの低山山間にも分布している。

○カサスゲ群落

この群落は山間や平地の池沼、用排水周り、山間の放棄湿田などに生育している。利賀村岩淵の湿地のこの群落は、カサスゲ、ミズオトギリ、ヒメシダなどが生育するが、平地の群落では、カサスゲにわずかのクサヨシ、シロネ、ヨシ、セリ、ミゾソバなどが生育している。平地の群落は土地改良でほとんど消滅しているが、スゲ笠の産地である福野町の周辺や、小矢部川に流入する用水周りに多く生育している。

○チゴザサーアゼスゲ群落

この群落は山間地の湧水のある放棄田や、池沼に流入する水源地に多く生育している。小杉町綿打池と福野町安居のこの群落は、アゼスゲかチゴザサのどちらかが優占する群落

で、アゼスゲ、チゴザサの他、ミズオトギリ、ホシクサ、コウガイゼキショウ類、ヌマトラノオ、イ、コケオトギリなどが生育している。その他、小矢部市、氷見市、八尾町、婦中町などの山麓谷間に分布している。

また、ヒライーカモノハシ群落も、チゴザサーアゼスゲ群落と似たような条件の所や谷間の水田周りに、まれに生育している。小杉町上浄土寺の山中には、アゼスゲ、ヌマトラノオ、カモノハシ、ヒライ、アギスミレなどが生育している。

○ミソハギ群落

この群落は山間谷間の池沼周りや細流周り、沼沢地に分布し、ミソハギの他、ヌマトラノオ、サヤヌカグサなどが生育している。富山市、小杉町、福岡町などの山麓谷間に分布している。

○ミソソバ群落

この群落は放棄湿田や山麓、平地の湿地に小面積で県内各地に分布し、ミソソバが優占する他、ケイヌビエ、イボクサ、クサネム、イ、ヒメジソ、ウシクグなどが生育する。呉羽丘陵の湿地には、ミソソバの中にスギナ、ヌマトラノオ、ヒメシダ、オオマルバノホロシ、クサヨシなどが、わずかに生育している。

○オギ群落

デルタ河川敷の高河川敷は、小規模な洪水や増水時には冠水することはないので、畑地や牧草地に利用されているが、元はオギ群落の生育地で、現在でも未利用地部分に残っている。また、扇頂部までの用水周りや、空地、堤防、北陸線沿線などに小面積で生育している。この群落はヨシ群落に続いて生育することが多く、この群落にヨシが混ることも多い。

○オニバス群落

この群落は氷見市十二町潟にのみ生育し、現在消滅寸前である。ヒメビシ、トチカガミ、オニバスの浮葉植物と、エビモ、フサモ、クロモ、マツモなどの沈水植物が生育している。このような滞水する池沼に、ヒシ、ヒメビシ群落が生育し、氷見地方や海老江、四方などに生育している。

また、山麓の池沼にまれにヒツジグサ群落があり、デルタ地帯の狭い緩流用水などにヒルムシロ群落が生育していることがある。

県内には湿田地帯が少ないので、ハス栽培地は非常に少なく、魚津地区などに小面積に栽培されているだけである。

○ヤナギモ群落

流れのゆるい排水は富栄養になるため、ヤナギモ、イトヤナギモ、エビモなどの沈水植物群落が生育し、富山市松川、いたち川などの市内河川に生育している。また、呉羽丘陵山麓の馬渡川のイトヤナギ群落に、ヒルムシロ、ササバモ、ミクリの水中葉が生育している。ミクリ群落は用水改良でまれになったが、水中葉のミクリは流れのゆるい用水など

に分布し、バイカモ群落もまれに扇状地の湧水性の用水などに生育しているが、フサモ群落は少ない。

30. 砂丘植生

富山湾の沿岸は、かつては100～200 mの長さの緩斜面の砂浜が広がり、その後2～5 mの高さの砂丘があった。それが近年における急激な海岸侵食によって、海浜が狭くなったり消滅したりして、極端な所では後背地のマツ林まで無くなってしまった。そのため、海浜砂丘植物の生育地が減少してきた。

○ハマヒルガオーオカヒジキ群落

この群落は、汀線に近い不安定砂地に打ち上げられた海藻などで富栄養になる立地に、まれに小面積で生育する。氷見市島尾海岸に分布し、オカヒジキのみの群落と、オカヒジキとハマヒルガオが混生している群落がある。

○ハマグルマーコウボウムギ群落

この群落は、汀線と砂丘の中間部の飛砂のある不安定な砂浜に生育している。県内の分布は、黒部市荒俣、富山市浜黒崎、打出浜、氷見市島尾などで、浜黒崎のこの群落の植被率は35%で、コウボウムギが多く、その他ハマニガナ、ケカモノハシ、ウンラン、ハマヒルガオなどが生育し、ハマグルマは県内に生育していない。

○ハマニガナービロードテンツキ群落

この群落は、コウボウムギ群落の飛砂が少ない安定地にまれに生育し、ビロードテンツキの中にハマヒルガオ、ハマニガナなどが疎に生育している。分布は黒部市荒俣、越湖浜、富山市浜黒崎、打出浜などである。

○ウンランーケカモノハシ群落

この群落は、コウボウムギ群落の生育地より飛砂が少なく、風成微小砂丘のハマゴウ群落生育地の前面のやや不安定地に生育する群落で、植被率は25～30%で、ケカモノハシが多く、その他、ウンラン、コウボウムギ、ハマボウフウ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、カワラヨモギなどが生育している。分布は、黒部市荒俣、越湖浜、大島、富山市浜黒崎、打出浜、氷見市島尾などである。

○ハマニンクアーオニシバ群落

この群落は、海浜砂地のある程度湿気のある砂地に生育し、植被率40～60%でハマニンクが多く、その他、ハマニガナ、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、ケカモノハシ、オニシバなどの荒地の植物が生育することがある。

○ウンランーハマゴウ群落

この群落は、ケカモノハシ群落の後方の高さ0.3～0.8 mの高さの風成微小砂丘に生育している。植被率は70%で、ハマゴウの周囲にウンラン、ハマニガナ、ハマボウフウ、ケカモノハシなどが生育しており、黒部市荒俣、大島、富山市浜黒崎から岩瀬、氷見市島尾な

どに分布している。

○ハマゴウ-ハイネズ群落

この群落は、ハマゴウ群落の生育地か、その後背地のクロマツ林内か、その前面周辺部に団塊状に盛上って生育している。かつては雨晴海岸にも生育していたが、現在は島尾海岸が県内で唯一の分布地になっている。また、ハイネズ群落の周囲にハマボウフウ、ケカモノハン、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ウンランなどが生育している。

植林地、耕作地植生（各クラス共通）

31. クロマツ植林

県内の自然性のクロマツ林は、氷見市大境、虻ヶ島などの海岸沿いにわずかに生育しているだけで、その他の海岸砂丘やその後背地のクロマツ林は、砂防や塩害防止のため植林した植生である。これらのクロマツ林内には芽生えの幼樹が多く生育している。今回の調査地域では入善町園家山、芦崎、黒部市荒俣、越湖浜、石田、大島、魚津市経田、富山市浜黒崎、古志町、海岸通り、西岩瀬、打出浜、氷見市島尾などに分布している。

浜黒崎などの海岸砂地に近い林内には、海浜植物のケカモノハン、ウンラン、ハマエンドウ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、コウボウムギなど、また所によってはチガヤ、マンテマ、ハマアオスゲ、スズメノヤリ、アキノキリンソウ、ハマハタザオ、セナミスミレ、マツヨイグサなどが混生している。浜黒崎では林の前面にマルバアキグミ群落も生育している。後背地のクロマツ林には低山性のオニグルミ、ヌルデ、ヤマザクラ、ムラサキシキブ、アズキナシ、エノキ、ネムノキなどの木本や、山麓性や平地性のツユクサ、チガヤ、ヨモギ、ノコンギク、アシボソ、トダシバ、リュウノヒゲ、ヒヨドリバナなどの草本が生育している。

32. スギ植生

県内の扇状地平野の農家の屋敷林は、スギの純林かスギが主体で、アカマツ、ケヤキ、クヌギ、竹林が生育する林になっている。砺波平野ではスギの純林が多い。また、扇状地末端部や海岸近くでは、スギにハンノキ、タブ、シロダモ、トネリコが混っている。

山麓、丘陵地、低山のスギの植林地は、ほとんど民有地で、氷見市などでは山地の $\frac{2}{3}$ 以上にも達し、その他の市町村でもそれに近い広さに植林されている。この植林地は、ウラシロガシ林やコナラ林の適地であって、林内にはヒサカキをはじめとする原植生の低木が生育している。草本にはドクダミ、リュウメンシダ、ベニシダ、イノコヅチ、オクマワラビ、ジャガ、チジミザサ、ヤブコウジ、ミゾンダなどが多く生育している。また、県西部の小矢部市、氷見市、高岡市などではボカスギの植林が多く、このスギは成長は早いが雪害にかかりやすい。

山地の植林地は民有林が少なく、山の斜面や稜線近くまで公有林である。ところが、戦

後森林開発公団や造林公社の造林が急速に普及し、各市町村で大面積に拡大しており、利賀川源流では林野庁の大規模な造林が行われた。これら深山の植林地の自然植生は、ブナクラスのブナ群落、ミズナラ群落であったが、現在では戸田峰、マルツンボリ山、人形山、金剛堂山、利賀村水無平では標高1200mあたりまで、白木峰では1400mあたりまで植林地が見られる。植林地の品種はアシオスギ系の地方的品種であるタテヤマスギが多いが、深山の大規模な植林地には植林地の不適な環境や、保護の必要な所も伐採造林されているので、生育も悪く、管理状況も良くない。この地域の低木、草本はブナクラスの、ハウチワカエデ、オオバクロモジ、リョウブ、ウワミズザクラ、ハイイヌガヤ、エゾアジサイ、ヤマソテツ、シンガシラ、テンニンソウ、トリアシシヨウマ、ハリガネワラビなどが生育している。

33. カラマツ植林

県東部に分布する天然性カラマツに対し、植林地は、利賀村百瀬川源流から東俣谷周辺、城端町縄ヶ池の上流、山田村と庄川町の境界（標高600~700m）、福光町医王山山麓（標高400m付近）、細入村などに部分的に植林されている。しかし、この植林は医王山など一部を除き、樹幹の雪折れで失敗している。そのため潜在植生のミズナラ、ブナなどが生育し始めている。

縄ヶ池に生育するこの群落は発育が悪く、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデなどがカラマツの生育に追いつき、低木にユキツバキ、チシマザサ、ヤマモミジ、ヒメアオキ、マルバアオダモ、ハウチワカエデなど、草本にミヤマカンスゲ、オクモミジハグマなどが、それぞれ生育している。この群落は放置しておく、元のヒメアオキブナ群集に変わる可能性がある。また、スギと混植した所ではスギ林に変わりつつある。

34. モウソウチク林

県内のモウソウチク林は、県西部の呉羽丘陵、小杉町黒河、小矢部市北蟹谷、高岡市二上、氷見市山麓全域などの標高200m以下のヤブツバキクラス域に広く分布している。この生育地は、低山や丘陵の山麓の緩斜面で排水良好な深い肥沃な土壌の所で、戦後放置された竹林と、今も筍畑として手入れされている竹林がある。筍畑としては、黒河地区と高岡市西田付近が有名である。

放置された呉羽丘陵の竹林には、高木にクマノミズキ、ウワミズザクラ、エゴノキなど、低木にヒメアオキ、ヒサカキ、キイチゴ、ヤマウルシ、コマユミ、ムラサキシキブなど、草本にドクダミ、ミズタマソウ、イノコヅチ、シャガ、イヌワラビ、ハリガネワラビなどがそれぞれ生育している。また、氷見地方の放置された竹林には、ウラジログシ、ヒサカキ、

ユズリハ、リュウノヒゲ、オクマワラビ、ベニシダなど、ウラジロガシ林の植物が多く生育している。

35. 落葉果樹園

県内の果樹は落葉果樹で、樹種はリンゴ、ナシ、カキ、ウメ、ブドウ、モモ、イチジクなどで、栽培面積は約 820haである。リンゴの産地の魚津市吉島の新扇状地の最も新しい沖積地で、砂壤土地域である。ナシは呉羽丘陵西斜面とそれに続く平野に大部分栽培され、その他魚津市、小杉町、大門町、城端町などの新扇状地の古い沖積地の壤土地域に栽培されている。干がき用の渋がきは福光町、城端町などに、また甘がきは小杉町、富山市、大門町、新湊市などに産する。ブドウは魚津市、滑川市、婦中町などで栽培されているが、生産量は多くない。ウメは氷見市で多く生産され、モモは氷見市、小杉町などで少量生産されている。また、近年大沢野町ではイチジクも生産されている。

36. 苗圃

県内の苗圃の98%までがスギ苗で、今回の調査地域では、新湊市庄川河川敷、小矢部市などに分布するが、生産量は少ない。

37. 畑地雑草群落（シロザクラス）

県内の沖積平野はほとんど水田化され、畑地は水田転作畑地を含めて耕作面積の5%程度で、ほとんどが丘陵地帯や緩斜面山麓に分布している。県内の各市町村に部分的に分布しており、この雑草群落にはカラスビシャク、コシキソウ、ニワホコリの他、シロザ、メヒシバ、スカシタゴボウ、ナズナ、エノキグサ、スベリヒユ、ウリクサ、ハコベ、ヒンジガヤツリなどが生育している。

38. ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落（休耕畑地雑草群落）

休耕畑地は平地にはほとんどなく、山間地や山麓にわずかに存在するだけである。この群落は休耕期間の長さによって現存植生にちがいがあがる。呉羽丘陵では、休耕後1年でヌカボ、ハウコグサ、ハルノノゲシ、ヒメジソなどの群落、2～4年でヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ヒメジョオン、ハルジョオン、メヒシバ、ベニバナボロギク、トウバナ、ヒメジソ、アシボソなどに変化してくる。また、アキノエノコログサが中心で、コブナグサ、シロツメクサ、ヨモギ、ハウキギク、オオアレチノギク、ススキなどの群落に変化することもある。その後ヨモギ群落、ススキ群落、オオアワダチソウ群落などに変化し、10年も経過すると、ヌルデ群落、ヤナギ群落、タニウツギ群落、クサギ群落などの低木群落へ変る。

39. 牧草地（人工草地）

小矢部市の稲葉山牧場や減反政策による扇状地の水田で牧草栽培地が小規模に分布している。面積は265ha(1977年度)で、牧草の種類はイタリアンライグラス(ネズミムギ)が最も多く、その他にオーチャードグラス(カモガヤ)、ペレニアルライグラス(ホソムギ)なども植栽されている。

40. ゴルフ場

本県でも近年のゴルフブームにより各地にゴルフ場が造成されている。

富山市、高岡市、小矢部市、魚津市、立山町、大沢野町、福岡町にそれぞれ1箇所づつあり、主としてコウライシバとベントグラスが植えられている。

41. 水田雑草群落（イネクラス）

県内平野の大部分は大小河川の複合扇状地でできており、その他射水平野はデルタ、氷見地方は海岸平野でできている。これらの平野はほとんど水田化され、耕作地の95%におよぶ。その水田の大部分は扇状地にある乾田で、扇状地末端部、射水平野、氷見の海岸平野が湿田である。

乾田雑草はスズメノカタビラとスズメノテッポウが主で、それにタネツケバナ、コオニタビラコ、マツバイなど、また秋になるとミズガヤツリ、ヤナギタデ、タマガヤツリ、コナギ、タウコギ、アゼトウガラシ、オモダカ、アギナシ、チョウジタデなどが生育している。また、湿田雑草にはタガラシ、セリ、イボクサ、ミゾソバ、タウコギ、ミズタガラシ、ミズオオバコなどが生育している。その中間の水田雑草にはウリカワ、コナギ、ホシクサ、スズメノトウガラシ、ミズキカシグサ、キカシグサ、クロクワイ、ヒルムシロなどが生育している。

神通川水系から灌がいされる大沢野町、富山市、婦中町の水田は、カドミウム汚染田として休耕している所が多く、復元している所はわずかである。この休耕地は大部分スキ草原になっている。

その他

42. 市街地

今回の調査地域には富山市、高岡市、黒部市、魚津市、滑川市、新湊市、氷見市、小矢部市、砺波市の県内全市と、大部分の町村の中心部が含まれる。近年市街地は周辺部に拡大しつつあり、市街地は緑の少ない所が多い。

43. 緑の多い宅地（緑被率60%以上）

扇状地には散村が、扇状地末端部やデルタ地帯には集村が発達している。どちらの集落も古い家屋の大部分は、緑の多い屋敷林や果樹林を有している。それらの屋敷林の樹種はスギが中心でその中にケヤキが混り、扇頂部ではアカマツ、扇央の旧河道や現在の河川付近でもアカマツが混っている。また、扇端部ではハンノキ、シロダモ、トネリコなどが混る。マダケは片貝川以東の屋敷林に生育していたが、現在は枯死してしまっているし、モウソウチクは片貝川以西の屋敷林の1割程度に生育している。

44. 工場地帯

県内の工場地帯のほとんどが今回の調査地域にあり、富山市、高岡市などの大市街地や、市町村の中心市街地周辺に多い。その他黒部市生地付近、富山市岩瀬港から東岩瀬駅付近、大沢野町国道41号線沿線、新湊市富山新港付近、伏木港付近、それに各市町村の造成している工業団地などが分布している。

45. 造成地

富山新港入口西側の海面に埋立地の造成が行われ、東側も造成予定になっている。また、新港後背地、八尾工業団地、高速道路インターチェンジ付近にも造成地が見られる。市街地周辺には住宅建設や公共施設建設、工場拡張のためなどに、それぞれ目的に応じた造成が行われている。それに伴って造成用土石の採集地が荒地になっており、婦中町音川線沿線、小矢部市小森谷南部、五郎丸から内名の間、倶利伽羅峠付近、大池付近、安楽寺付近、高岡市西山周辺、海老坂峠付近などに荒地が見られる。また、河川からの砂礫採集地もある。

46. 開放水域

多目的ダムである小矢部川刀利ダム、室牧川の室牧ダム、発電用の神通系ダム、庄川系ダムなどにダム湖が見られる。また、平野部の扇状地河川敷では流れは細く、各河川のデルタ河川敷では幅広くゆっくり流れている。また、伏木港、富山新港、富山港もこの水域になる。湖沼では氷見市十二町瀉、城端町縄ヶ池、桜ヶ池などや小杉町のため池が含まれる。

47. 自然裸地

県内の河川は急流であるので、洪水時に河川敷内を広く流れるが、減水時には細流が分岐して流れる。そのため無植生の広い氾濫原荒地が扇状地河川敷にできる。また、谷川にも狭い裸地が見られる。

6. 資料リスト

番号	筆 者 名	発行年	資 料 名
1	大 田 弘	1975	富山の植生
2	宮 脇 昭	1975	富山県現存植生図
3	宮 脇 昭	1977	富山県の植生
4	大小 田路 登 弘 長 井 真 隆	1978	第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書
5	大小 田路 登 弘 長 井 真 隆	1983	富山県植物誌
6	宮 脇 昭	1985	日本植生誌（中部）

7. 調査担当者名簿

番号	氏 名	所 属	分 担 分 野
1	大 田 弘	富山県植物友の会会長	総 括 責 任 者
2	小 路 登 一	富山県立新川女子高校教頭	現 地 調 査 及 び と り ま と め
3	長 井 真 隆	富山市科学文化センター館長	現 地 調 査 及 び と り ま と め

